

薬剤師のための 漢方薬草入門講座 ～気血水シリーズ～ 「血」について

2023年7月26日

薬剤師 新村 赴人

本日の内容

○漢方治療の考え方

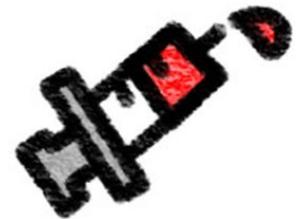
漢方的な体質とは？

○漢方の基礎理論：気血水

～血について～

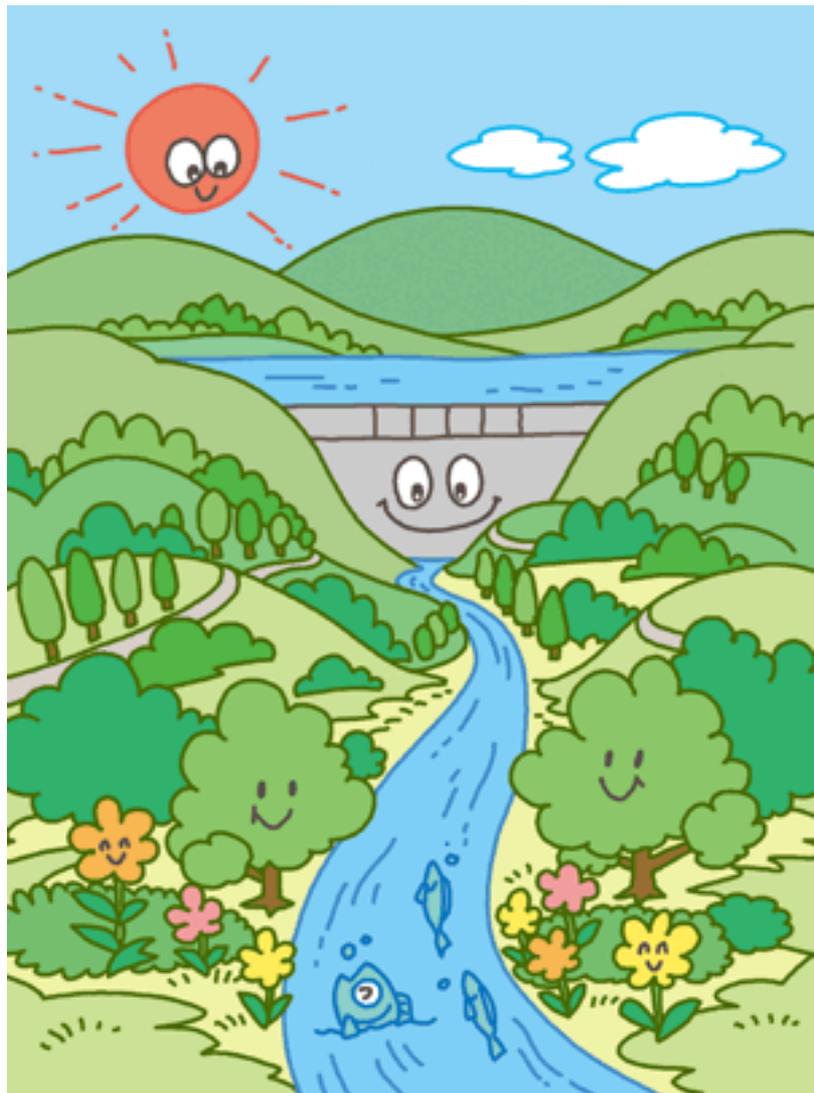
- ・「血」の異常：血瘀、血虚
- ・「血」の異常に用いる生薬、処方

○生薬解説：大黃

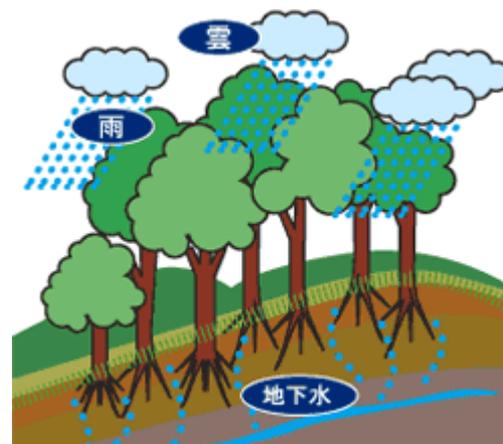


漢方治療の考え方～健康な状態～

体全体のバランスが良い状態



漢方的な体質



根本→山の木がしっかり根を張っている状態

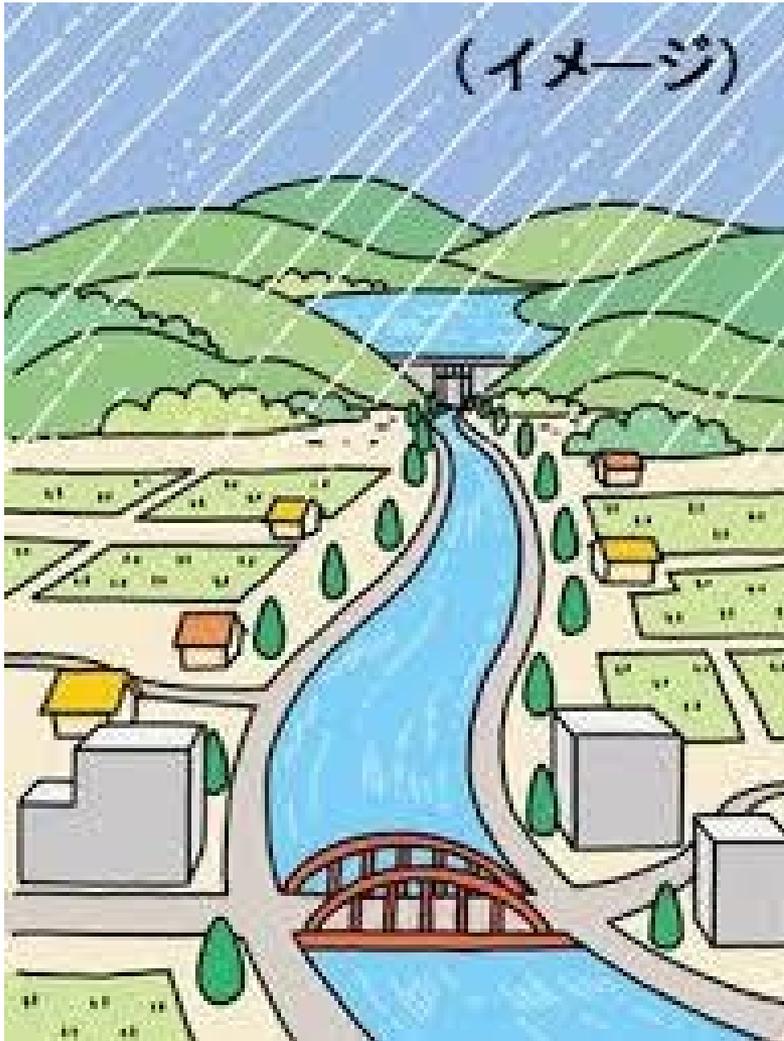
健康



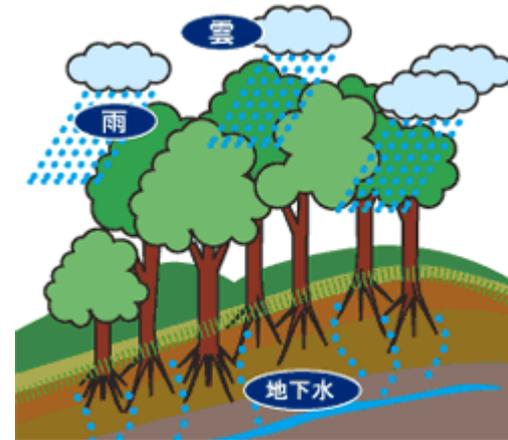
麓のダムも水量の調整が上手くいっている

漢方治療の考え方～未病の状態～

原因：雨が降っている



漢方的な体質



根本→山の木がしっかり根を張り
森を守っている状態



無症状
(未病)

無症状→麓のダムは氾濫していない
状態

東洋医学的な病気の原因 「六淫の邪」

自然界から身体に入る病気の原因 六淫



六淫外邪

風

寒

暑

湿

燥

火

風：衛気を破壊して暑以外の邪を体内に引き入れる。
初期症状：鼻汁、軽い寒気、体表の違和感

+

寒：激しい寒気、節々の痛み

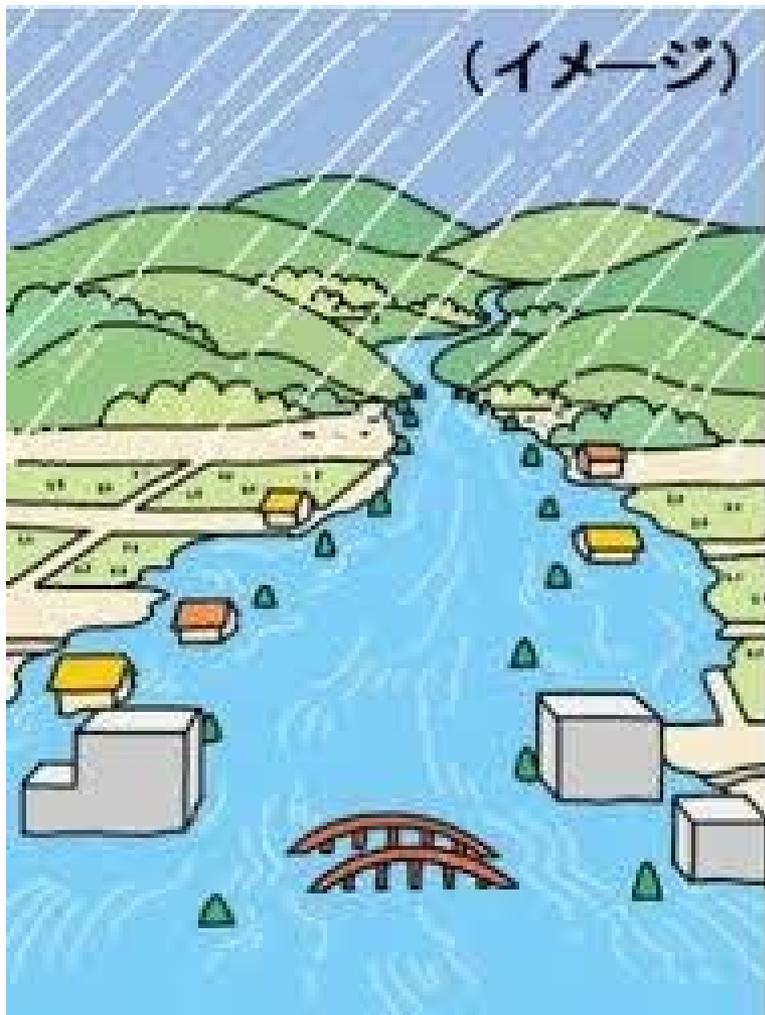
湿：初期から軟便、上腹部不快感

燥：目や喉の粘膜の乾燥

熱(火)：寒気がほとんどない、咽頭痛、目の充血、口渇

漢方治療の考え方～症状がある状態～

原因:大雨



漢方的な体質



根本

根本→木が倒れて山が崩れている状態

疾患(症状発現)



対症

対症→麓のダムも氾濫した状態

漢方治療の本治と標治

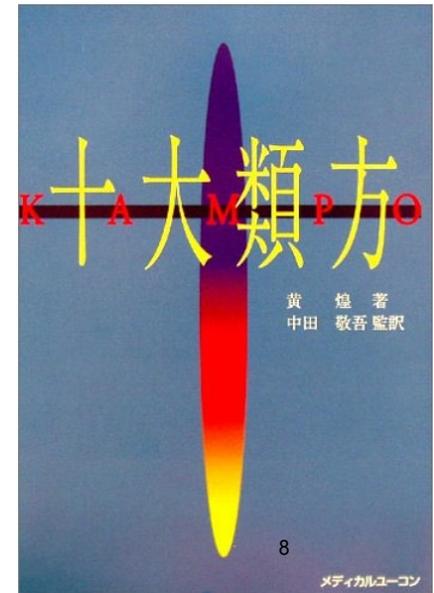
• 中国漢方(中医)では、
「本治(ほんち)」・・・根本治療
→病気の原因に対処すること

「標治(ひょうち)」・・・対症療法
→その原因によって生じる症状を治療
すること

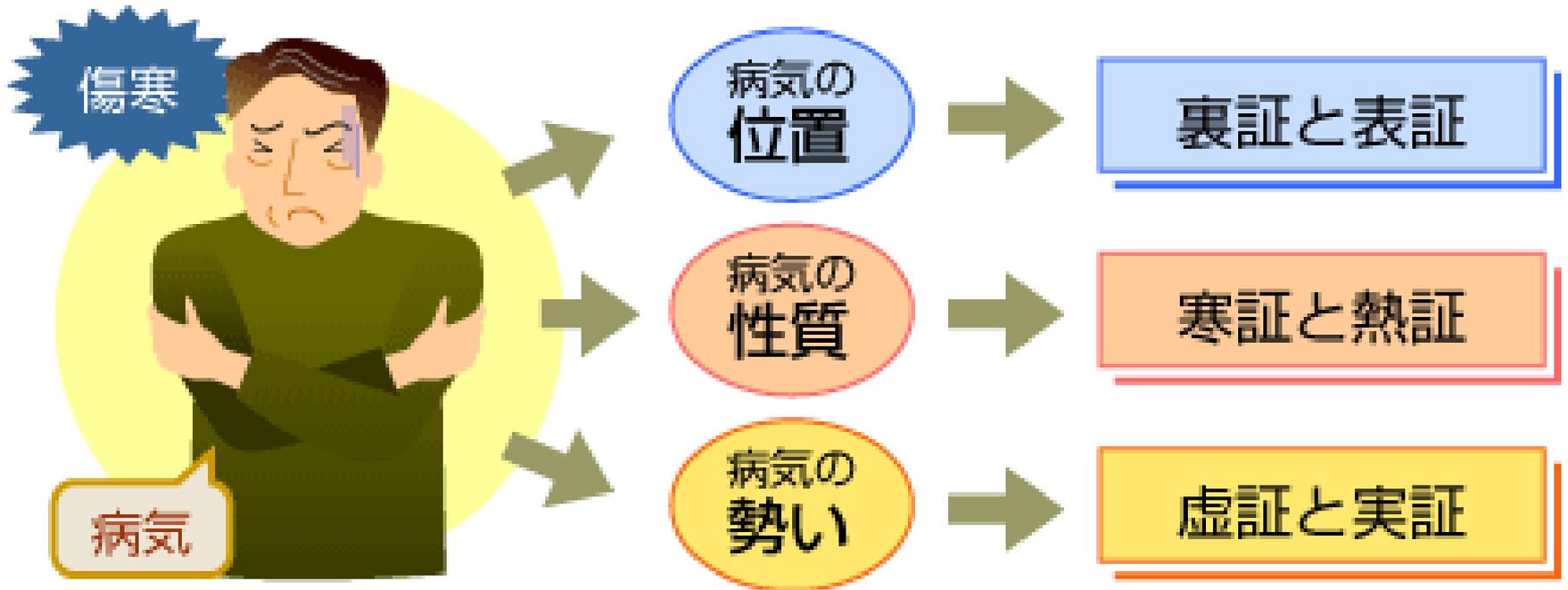
漢方的な体質とは

寒熱、虚実など

- 八綱弁証からみる体質
- 気血水からみる体質(古方派・中医学)
- 一貫堂の三大体質(後世派)
- 薬物(生薬)による体質分類



漢方診断の基礎 八綱弁証



八綱弁証は表裏、寒熱、虚実の3つの視点を中心に証を決める方法

日本漢方における虚実

虚証 きょしょう

体力がなくて弱々しい
細くて華奢(きゃしゃ)
顔色が悪くて肌が荒れやすい
細くて小さな声
胃腸が弱くて下痢をしやすい
寒がり



実証 じっしょう

体力がある
筋肉質でガッチリ
血色がよく、肌ツヤがある
大きくて太い声
胃腸が強くて便秘ぎみ
暑がり



日本における漢方医学の流派

漢方医学の学派

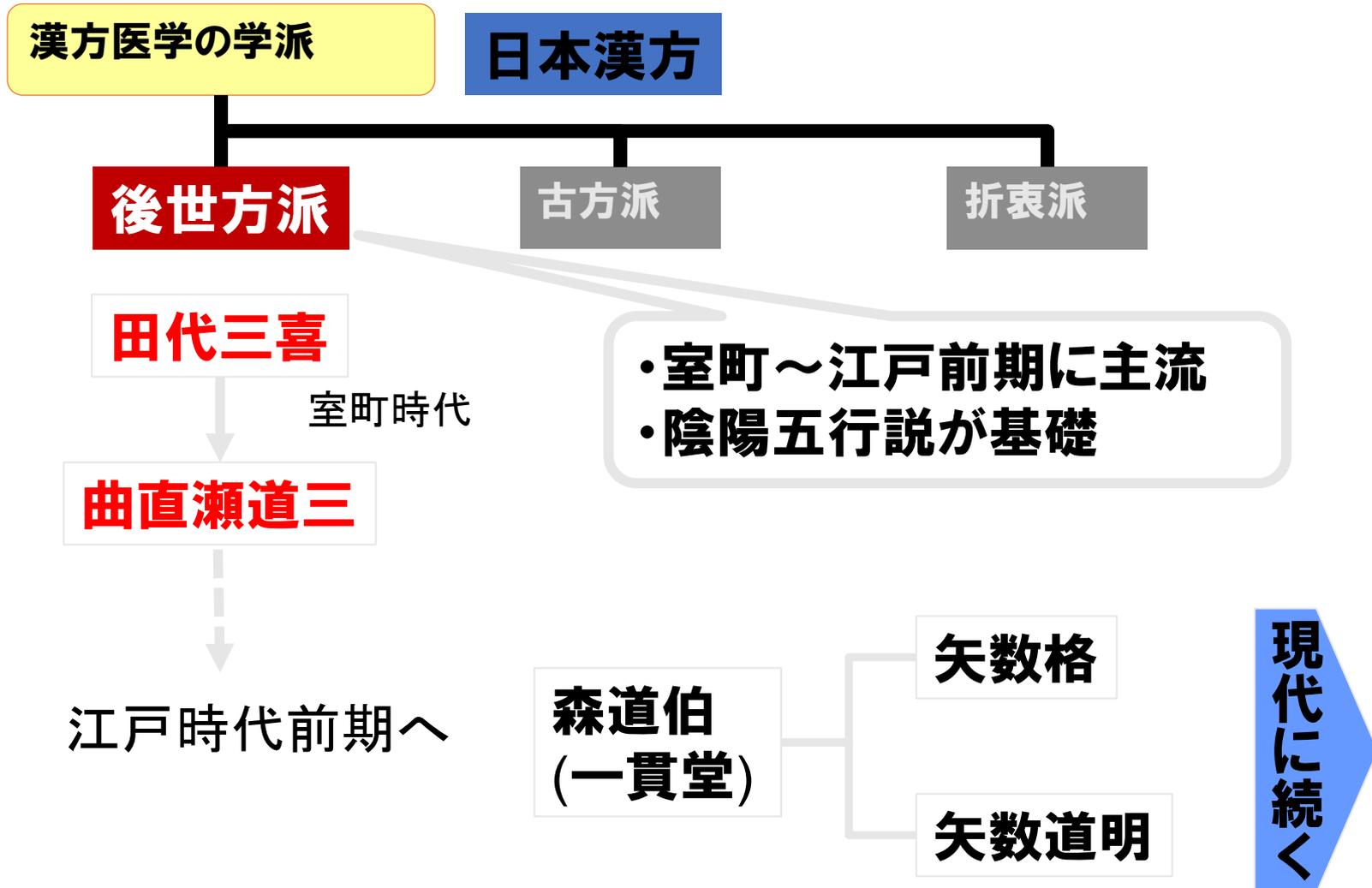
中国漢方(中医学)

日本漢方

- ・ 後世方派 → 一貫堂
- ・ 古方派
- ・ 折衷派
- ・ 山本流(山本巖)

日本における漢方医学の流派

後世方派



一貫堂とは？

一貫堂医学は、森道伯先生(1867～1931)が創始した一貫堂流後世派。

人の体質を三大証(瘀血(おけつ)証・臓毒証・解毒証)に分類し、通導散・防風通聖散・柴胡清肝湯・荊芥連翹湯・竜胆瀉肝湯の五処方を用いて体質改善を行った。

現代の難病・慢性疾患・生活習慣病の治療・メタボ体質改善や予防に応用できる、極めて有効で実践的漢方医学である。

一貫堂の三大体質について

- 臓毒証体質
- 瘀血証体質
- 解毒証体質



森道伯

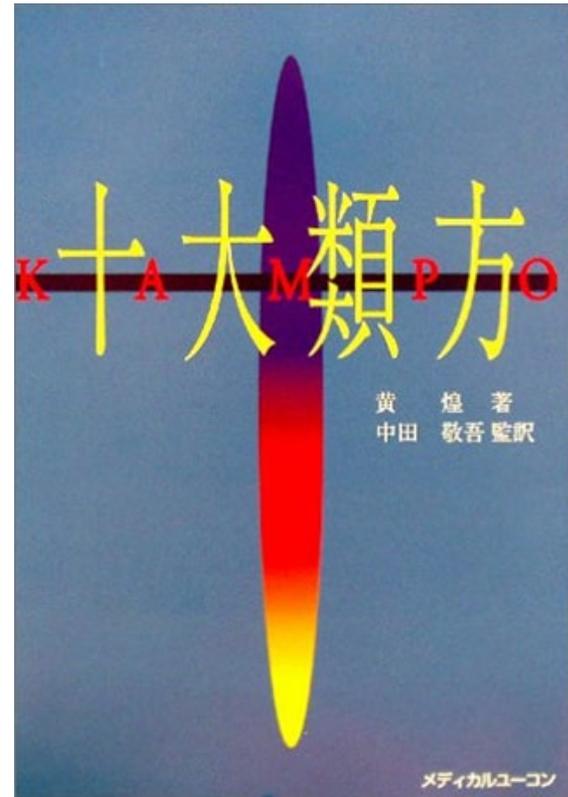
一貫堂の三大体質について

■3つの体質と適応処方

体質	対応処方	説明
瘀血証体質	通導散	瘀血とは血が体内に停滞した状態を指し、血の停滞を起こしやすい体質を瘀血証体質という。一貫堂医学では、停滞した血を通導散で排泄することを重視した。生理不順や不妊症など女性の病気のほとんどは瘀血と関係しているといわれ、瘀血証体質の人がかかりやすい疾患として、それ以外に各種慢性病、外因性の打撲傷・内出血などを挙げることができる。なお、一貫堂の通導散は、『傷寒論』の大承気湯をもとに創案されたため、原方とは異なる。
臌毒証体質	防風通聖散	臌毒は、体内の各臓器に蓄積した新陳代謝障害物やその他の毒で、風毒、水毒、食毒、梅毒からなる。これらの毒素の蓄積によってもたらされる疾病を、発表攻裏の剤である防風通聖散で排泄するため、臌毒証体質は、防風通聖散で治療すべき疾病にかかりやすい体質と言い換えることができる。臌毒証体質の人は、飽食や不摂生による肥満症や動脈硬化症、臌毒に起因する皮膚病や各種慢性病にかかりやすいといわれている。
解毒証体質	柴胡清肝湯 荊芥連翹湯 竜胆瀉肝湯	解毒作用が弱く、体内の様々な毒を解毒・排泄できない体質。幼年期には柴胡清肝湯、青年期には荊芥連翹湯、壮年期には竜胆瀉肝湯を用いる。

薬物（生薬）による体質分類

- 桂枝体質
- 麻黄体質
- 柴胡体質
- 黄耆体質
- 大黄体質



例) 桂枝体質と麻黄体質

		桂枝体質	麻黄体質
外観特徴	体型	<ul style="list-style-type: none"> ・痩せ気味 ・筋肉は割合硬い 	<ul style="list-style-type: none"> ・やや肥満 ・筋肉は比較的発達あるいは幾分ゆるい ・身体は比較的壮実
	皮膚	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的色白 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚のきめは割合細かい 	<ul style="list-style-type: none"> ・黄・淡黄、あるいは浅黒くて肌理が粗く、比較的乾燥
		<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚表面は湿潤 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、汗が出にくい
		<ul style="list-style-type: none"> ・腹部は平らであることが多く、腹壁も緊張気味 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・目に輝きがある 	
	唇	<ul style="list-style-type: none"> ・唇は淡紅もしくは暗 	<ul style="list-style-type: none"> ・唇は暗、あるいは紫紅

臨床でよく使う漢方理論

漢方は、現代医学とは全く異なる独自の理論・概念があります。
その中でも臨床でよく使う漢方理論が「三陰三陽」「五臓論」「気血水」です。

三陰三陽(六病位)

急性熱性疾患のステージ分類。主に急性の病気（感染症・環境要因によるものなど）の診断に用います。

五臓論

体の機能を五臓（現代医学の臓器とは異なる概念）に分類し、病気を各臓器および臓器同士の関係性の異常ととらえるもの。
慢性的な病気の際によく用います。

気血水

生体の健康状態を気（エネルギー）および血・水（物質）のバランスでとらえるもの。
慢性的な病気の際によく用います。

など

気 血 水 - 生体を維持する3要素 -

漢方医学では、生体は気血水の3要素が体内を循環することによって維持されると考えます

気

目に見えない生命エネルギー
生体における精神活動を含めた
機能活動を統一的に制御する要素

血

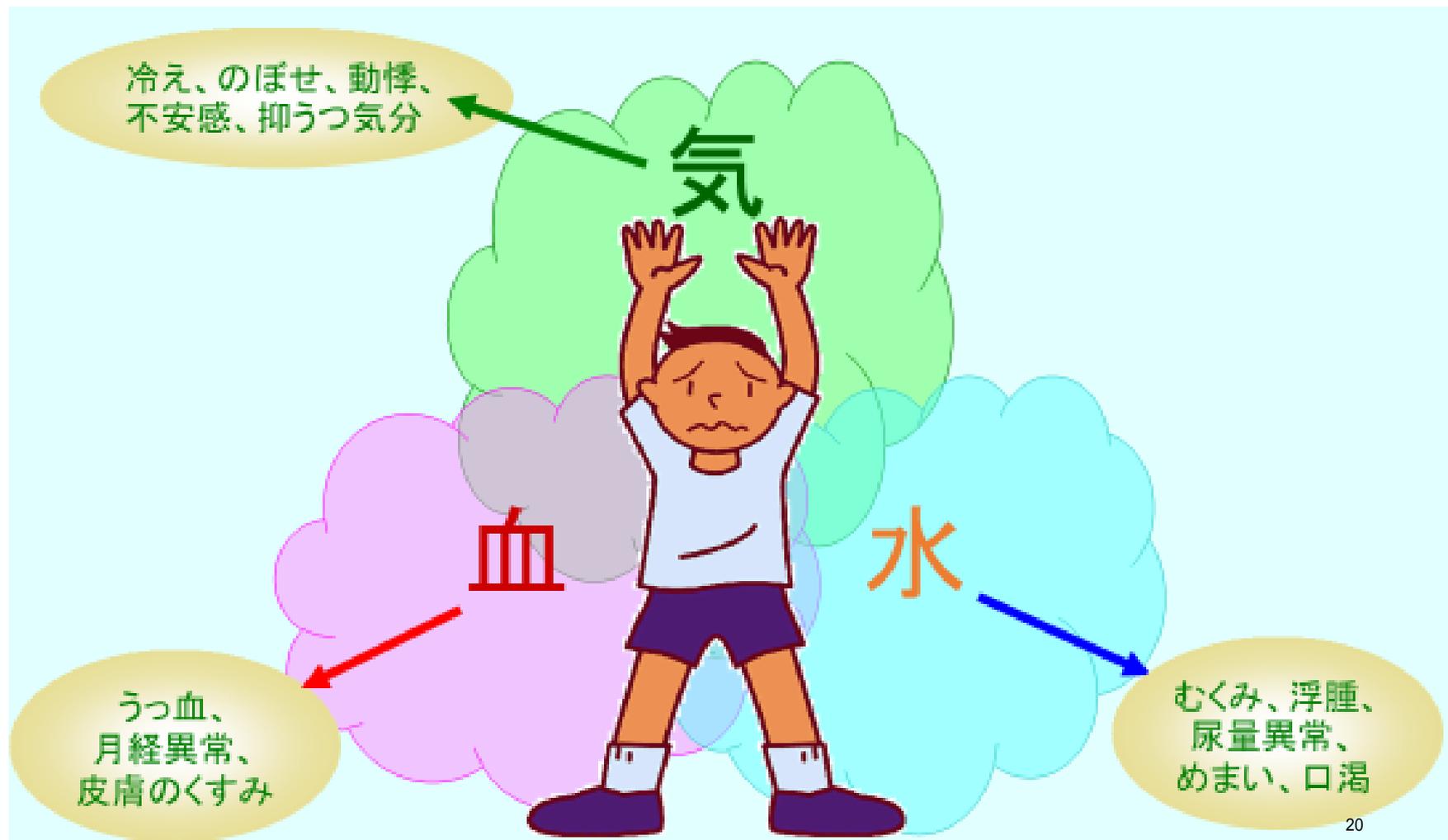
気の働きを担って
生体を循環する赤色の液体

水

気の働きを担って、生体を
滋潤し、栄養する無色の液体

気血水のバランスが崩れると...

気血水の循環のバランスが崩れ、量が不足したり、流れが異常になったりすると生体に様々な症状が出てきます



漢方医学で言う「血」とは？

- 人間を大きく全体としてみる時、眼に見える肉体という「物質」とその「機能」という捉え方が大切。
- 「気」は機能、「血」は物質と考える
- 「血」の概念は時代とともに変化している。

血の性質や作用



全身に栄養を補給する



全身を潤す



精神活動を支える

「血」の異常

瘀血

- 眼輪部の色素沈着
- 月経障害
- 顔面の色素沈着
- 唇の暗赤化

血虚

- 顔面蒼白
- 貧血
- 健忘
- 息切れ
- 皮膚乾燥

瘀血（血瘀）

血の流れが停滞した状態が瘀血です。
血管内の血の流れが停滞するものも、血管外に漏れ出た血が停滞（内出血など）するものも含まれます。
様々な症状を引き起こし、



- ・舌、歯肉、唇が暗紫色
- ・青あざがしやすい
- ・目の下のくま
- ・顔面の色素沈着（しみ）
- ・舌下静脈怒張
- ・打撲、内出血
- ・肩こり（肩そのもののこり）

月経、出産との関連も深い病態で、

- ・月経異常、月経困難
- ・更年期の諸症状
- ・月経周期に合わせて増悪、寛解する諸症状（PMSなど）
- ・出産を機に出現、増悪した諸症状

なども瘀血の症状と考えられています。また、経験的に

- ・下腹部（臍の斜め下、S状結腸部、回盲部など）の圧痛

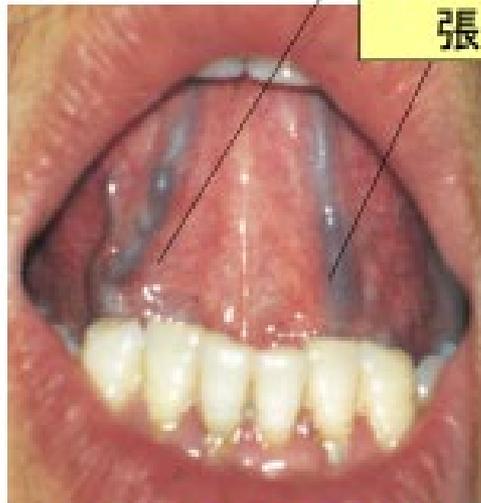
も瘀血の所見として知られています。

瘀血の症状（ビジュアルで分かるもの）

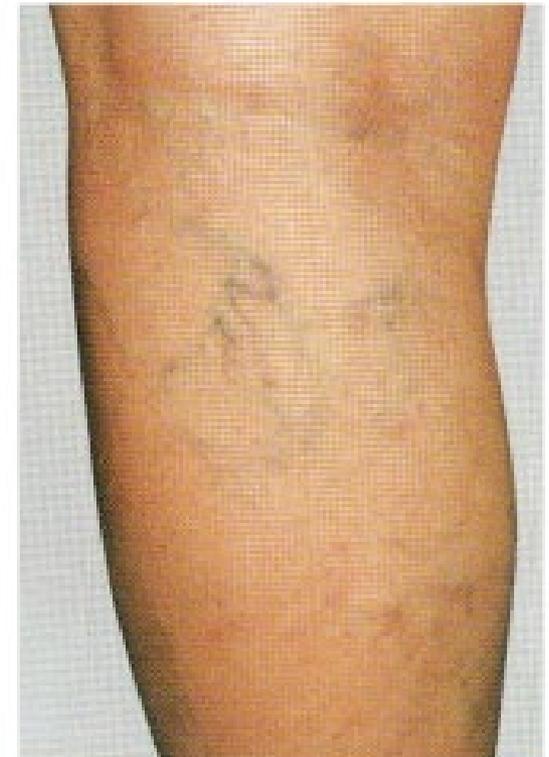


舌の色が暗赤色・紫色っぽい

舌下静脈が太く張っている



舌下静脈の怒張



細絡
（毛細血管の拡張）

基本病態に対する8方剤と構成生薬

基本病態	基本方剤	構成生薬
気虚	四君子湯	人参、白朮、茯苓、甘草
気逆	苓桂朮甘湯	茯苓、桂枝、白朮、甘草
気鬱	半夏厚朴湯	半夏、厚朴、生姜、茯苓、蘇葉
血瘀血	桂枝茯苓丸	桂枝、茯苓、牡丹皮、桃仁、芍薬
血虚	四物湯	地黄、当帰、芍薬、川芎
水湿	四苓散(五苓散)	白朮、茯苓、沢瀉、猪苓
裏寒	人参湯	人参、乾姜、甘草、白朮
実熱	黄連解毒湯	黄連、黄芩、黄柏、山梔子

瘀血に効果のある生薬 **駆瘀血薬**



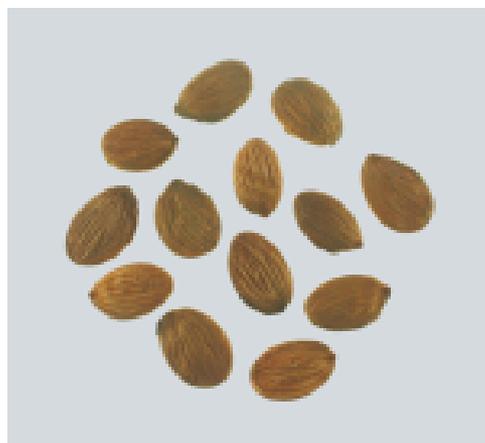
桃仁(トウニン)



牡丹皮(ボタンピ)

駆瘀血薬:局所での「血」のめぐりを良くする
静脈系でのうっ血を改善する

瘀血に効果のある生薬 桃仁



桃仁(平性)：主作用＝活血・駆瘀血、潤腸

活血・駆瘀血の代表的な生薬

活血（血流を良くして鬱血をのぞく）のほかに、瀉血によって鬱血を除くような破血作用がある

桃 仁

【性味】 苦甘、平。

【薬能】 駆瘀血、潤腸・通便。

瘀血を除き血行を促進する。腸を潤滑し通便を図る。

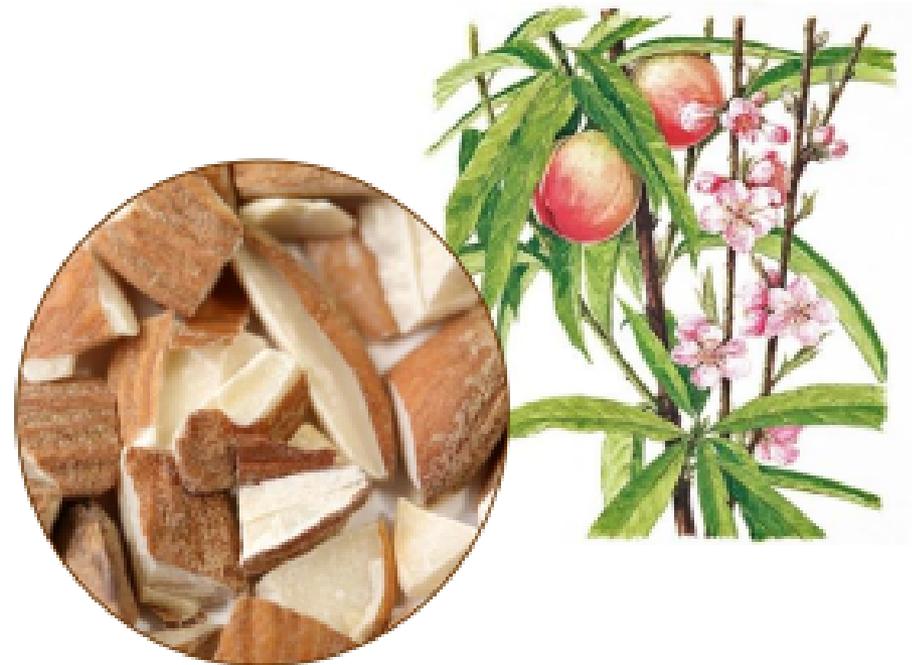
【配合処方】 桂枝茯苓丸、潤腸湯、疎経活血湯、大黄牡丹皮湯など。

「神農本草経」下品に収載。

「桃」の木は育てやすく、
実が多く取れるので

「木十兆」で「桃」と呼ぶ。

日本でも中国でも、古来から
邪気を払う果実とされている。



瘀血に効果のある生薬 牡丹皮



牡丹皮(微寒性)：主作用＝活血・駆瘀血、
抗炎症解熱（血熱を冷ます）

活血・駆瘀血の主薬であり、抗炎症解熱作用がある。
血熱を冷ます清熱涼血薬に分類される乾地黄とともに陰虚の熱に用いる

ボ タン ビ 牡丹皮

【性味】 辛苦、涼。

【薬能】 駆瘀血、清熱。

血の停滞による生理を調え、痛みを止める。血を活かし煩熱を除く。

【配合処方】 加味逍遙散、芎帰調血飲、桂枝茯苓丸、牛車腎気丸、
大黃牡丹皮湯など。

神農本草經の中品に収載。

種ができにくいため

おす
「牡」の花とみなされた。

たん
「丹」は「丹色」にいろ（赤色）の意味。

唐代以降花の美しさを愛でられ、
百花の王と讃えられる。



驅瘀血薬の配合された処方群

桃仁

+ 牡丹皮

+ 桂枝・茯苓
芍薬

桂枝茯苓丸

+ 大黄・芒硝
冬瓜子

大黄牡丹皮湯

+ 薏苡仁
・冬瓜子

腸癰湯

+ 大黄・芒硝
桂枝・甘草

桃核承気湯

瘀血の基本処方 桂枝茯苓丸(出典:金匱要略)

桃仁・牡丹皮などの駆瘀血薬が主薬であり、特に牡丹皮は消炎止血作用がある。桂皮の血管拡張作用が駆瘀血作用を助け、茯苓は健胃利水、鎮静作用がある。



桂皮



芍薬



桃仁



牡丹皮



茯苓

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス1.75gを含有する。

日局ケイヒ	3.0g
日局シャクヤク	3.0g
日局トウニン	3.0g
日局ブクリョウ	3.0g
日局ボタンピ	3.0g

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

効能又は効果

体格はしっかりしていて赤ら顔が多く、腹部は大体充実、下腹部に抵抗のあるものの

次の諸症：

子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、月経不順、月経困難、帯下、更年期障害（頭痛、めまい、のぼせ、肩こり等）、冷え症、腹膜炎、打撲症、痔疾患、睾丸炎

使用上の注意(抜粋)

重大な副作用
肝機能障害、黄疸

その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発疹、発赤、癢痒等
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、下痢等

*その他の使用上の注意等は最新の添付文書をご覧ください。



ケイ シ ブク リョウ ガン
ツムラ桂枝茯苓丸

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

TJ-25
2007年5月改訂

使用上の注意

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

[本剤に含まれるトウニン、ポタンピにより流早産の危険性がある。]

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]



ケイ シ ブク リョウ ガン
ツムラ桂枝茯苓丸
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

TJ-25
2007年5月改訂

薬効薬理

1. ホルモンに対する作用(ラット)¹⁾
2. 子宮に対する作用(マウス)²⁾
3. 更年期障害に対する作用(ラット)³⁾
4. 作用機序
更年期障害に対する作用(ラット)³⁾

【主要文献】

- 1) Sakamoto, S. et al. J. Ethnopharmacol. 1988, 23, p.151.
- 2) Mori, T. et al. Planta Med. 1993, 59(4), p.308.
- 3) Noguchi, M. et al. J. Endocrinol. 2003, 176, p.359.

※効能又は効果、用法及び用量、使用上の注意等は製品添付文書をご覧ください。

ケイシブクリョウガン

桂枝茯苓丸の構成生薬



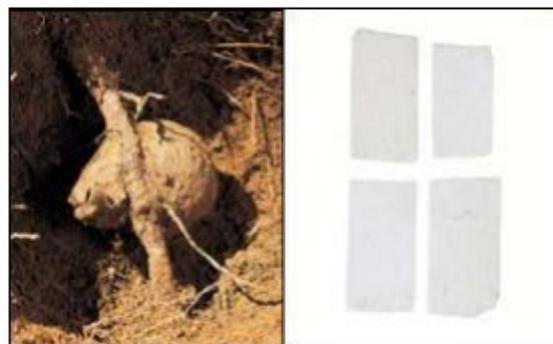
桂皮(ケイヒ)



芍薬(シャクヤク)



桃仁(トウニン)



茯苓(フクリョウ)



牡丹皮(ボタンピ)

桂枝茯苓丸の使用目標

体力中等度もしくはそれ以上の人で、のぼせて赤ら顔のことが多く、下腹部に抵抗・圧痛を訴える場合に用いる。

瘀血*に伴う諸症状に用いる。

- 1)頭痛、肩こり、めまい、のぼせ、足の冷えなどを伴う場合。
- 2)無月経、過多月経、月経困難など月経異常のある婦人。

*瘀血：漢方の一概念で主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。

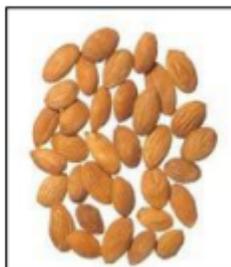
監修：大塚恭男、花輪壽彦



〔ケイヒ〕



〔シャクヤク〕



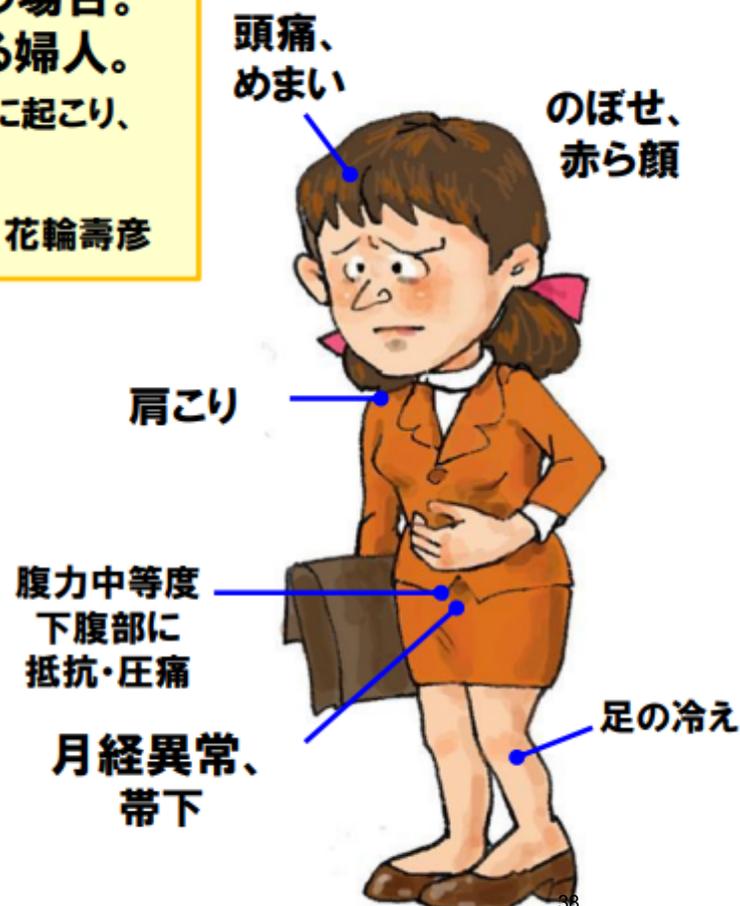
〔トウニン〕



〔ブクリョウ〕



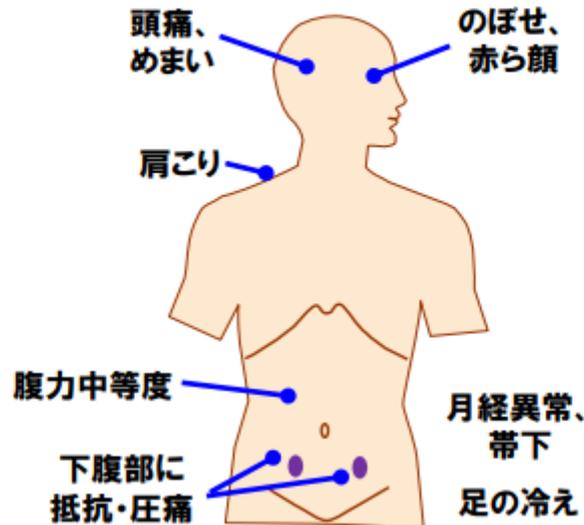
〔ボタンピ〕



古典に見る桂枝茯苓丸

^{フジン} 婦人、^{モト} 宿ヨリ癥病有リ、^{チヨウビョウ} 經断チテ
^{イマ} 未ダ^{ミツキ} 三月ニ^{オヨ} 及バズ、^{シカ} 而モ^{ロウゲ} 漏下ヲ^エ 得テ
^ヤ 止マズ、^{タイ} 胎動キテ^{ウゴ} 臍上ニ^{セイジョウ} 在ル者ハ、^ア ^{モノ}
^{チヨウコ} 癥瘕^{ニンシン} 妊娠ヲ^{ガイ} 害スト^ナ 為ス。」

(金匱要略 婦人妊娠病脉證并治第二十)



※癥瘕 (ちようか：腹がふくれあがる病。また、血がこりかたまること。)

古典（金匱要略）からみた桂枝茯苓丸

（現代語訳）

「女性に長年にわたる癥病（ちょうびょう）がある場合、（妊娠によって）月経が中断して3か月経たずに、不正出血が起こり、止まらない。胎児の動きが臍の上にあるのは、癥のしこりが妊娠を障害している。」

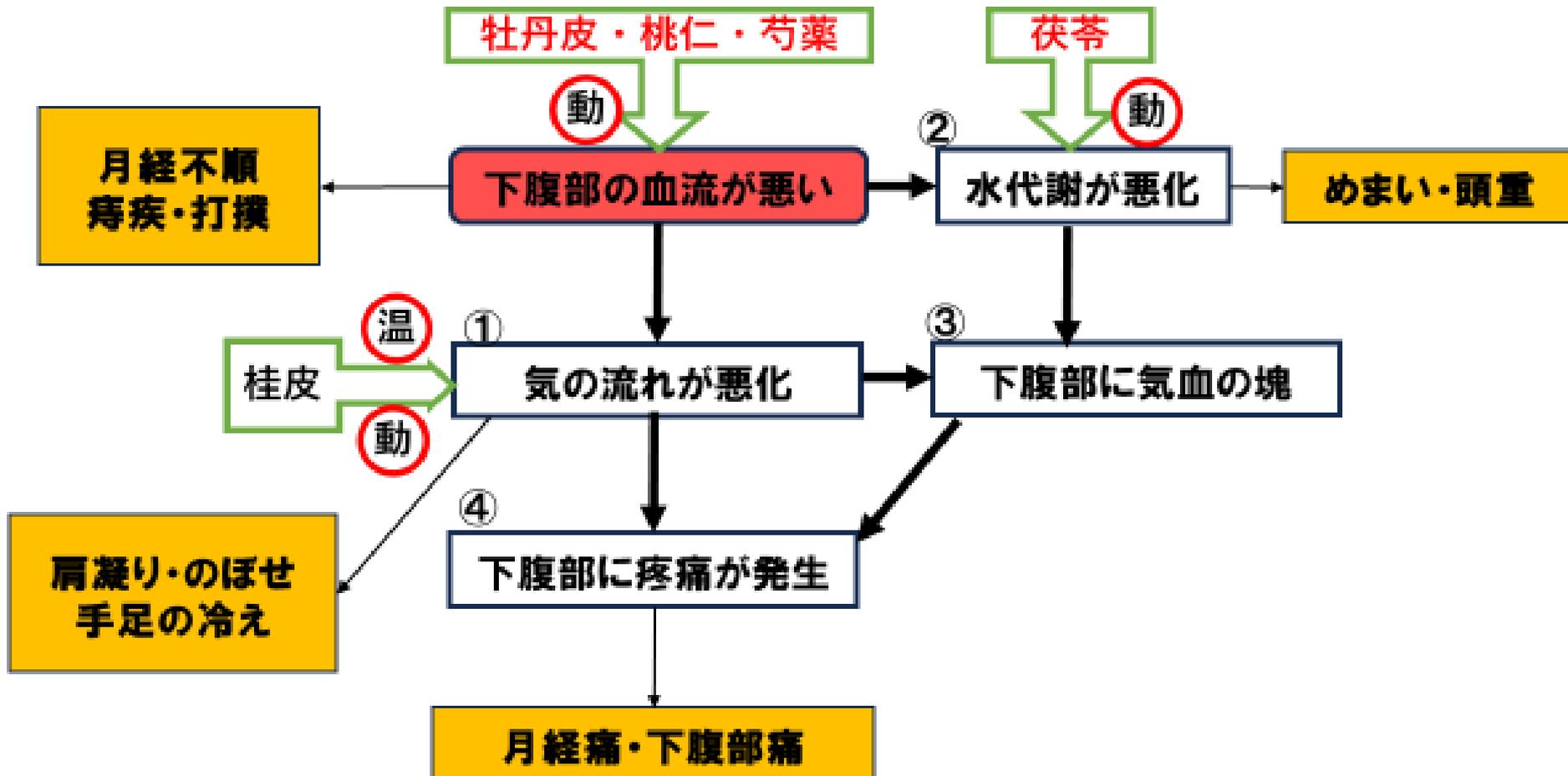
「血が止まらないものは、その癥が取り除けていないためである。その癥を下し出すべきである。桂枝茯苓丸が担当する」

※癥瘕（ちょうか：腹がふくれあがる病。また、血がこりかたまること。）

桂枝茯苓丸 服薬指導のポイント

- 血流の改善や止血、抗炎症を目標にしている処方で適用範囲は広い
- 婦人科だけではなく男性の利用も多い
(皮膚疾患、打撲、睾丸炎、肩こり、のぼせなど)
- 妊婦の利用は控える。特に流産しやすい人の場合は利用しない。
- 数日から数週間以上の服用が必要であることが多い

桂枝茯苓丸 処方のおくみ



添付文書から見た桂枝茯苓丸

【効能又は効果】

体格はしっかりして赤ら顔が多く、腹部は大体充実、**下腹部に抵抗**のあるものの次の諸症：

子宮並びにその付属器の炎症、子宮内膜炎、**月経不順**、**月経困難**、**帯下**、**更年期障害**(**頭痛**、**めまい**、**のぼせ**、**肩こり**等)、**冷え症**、**腹膜炎**、**打撲症**、**痔疾患**、**睾丸炎**

桂枝茯苓丸 関連処方

- **桃核承気湯**：主として上半身の鬱血に用いる駆瘀血剤
- **大黃牡丹皮湯**：虫垂炎や憩室炎などの化膿性炎症に用いる駆瘀血剤
- **通導散**：熱証タイプに適応する駆瘀血剤
- **芎帰調血飲第一加減**：寒証タイプ似適応する駆瘀血剤



トウ カク ジョウ キ トウ
ツムラ桃核承気湯

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

2007年5月改訂

[TJ-61]

出典:傷寒論

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス3.0gを含有する。

日局トウニン	5.0g
日局ケイヒ	4.0g
日局ダイオウ	3.0g
日局カンゾウ	1.5g
日局無水ボウショウ	0.9g

効能又は効果

比較的体力があり、のぼせて便秘しがちなものの次の諸症:

月経不順、月経困難症、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、
高血圧の随伴症状

(頭痛、めまい、肩こり)

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

重大な副作用

- 1)偽アルドステロン症
- 2)ミオパチー

トウカクジョウキトウ 桃核承気湯の構成生薬



桃仁(トウニン)



桂皮(ケイヒ)



大黄(ダイオウ)



甘草(カンゾウ)



芒硝(無水ボウショウ)

「桃核承気湯」名称の由来

本方は、^{チヨウイ}調胃承気湯に^{ケイヒ}桂皮と^{トウニン}桃仁を加えたものである。^{トウニン}桃仁と^{トウカク}桃核とは同じ意味で、桃の種子を含む内果皮のことをいう。
^{ジョウキ}承気とは気を廻らすという意味で、ここでは腸の機能を活発にし排便を促すことを指している。処方名はこの作用に由来する。

桃核承気湯

桂皮

桃仁

調胃承気湯

甘草

大黄

芒硝

大黄甘草湯

清熱し邪を下す



トウニン





トウ カク ジョウ キ トウ

ツムラ桃核承気湯

エキス顆粒(医療用) 薬価基準収載

TJ-61
2007年5月改訂

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)下痢、軟便のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある。]
- (2)著しく胃腸の虚弱な患者 [食欲不振、胃部不快感、腹痛、下痢等があらわれることがある。]
- (3)著しく体力の衰えている患者 [副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- (3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。
- (4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。 (「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。



トウ カク ジョウ キ トウ
ツムラ桃核承気湯
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

TJ-61
2007年5月改訂

使用上の注意

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

[本剤に含まれるダイオウ(子宮収縮作用及び骨盤内臓器の充血作用)、無水ボウショウ(子宮収縮作用)、トウニンにより流産の危険性がある。]

(2) 授乳中の婦人には慎重に投与すること。[本剤に含まれるダイオウ中のアントラキノン誘導体が母乳中に移行し、乳児の下痢を起こすことがある。]

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

8. その他の注意

本剤には無水ボウショウが含まれているので、治療上食塩制限が必要な患者に継続投与する場合は注意すること。

桃核承気湯の使用目標

体格、体力の充実した人で、瘀血*に伴い、左下腹部に抵抗・圧痛があり(小腹急結)、便秘し、のぼせのある場合に用いる。

- 1)頭痛、めまい、不眠、不安、手足の冷えなど精神神経症状を伴う場合。
- 2)月経不順、月経困難などのある婦人。

*瘀血:漢方の一概念で、主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。

監修:大塚恭男、花輪壽彦

歯痛、抜歯後の
痛みにも有効

不安、不眠、
興奮

頭痛、
めまい

のぼせ

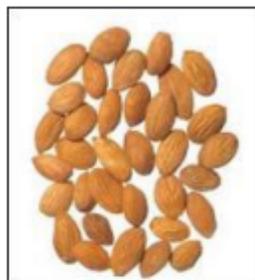
肩こり

腰痛

腹痛、
便秘

月経異常

腹力中等～強、
左下腹部に
抵抗・圧痛



〔トウニン〕



〔ケイヒ〕



〔ダイオウ〕



〔カンゾウ〕



〔ポウショウ〕



ダイ オウ ボ タン ピ トウ

ツムラ大黃牡丹皮湯

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

2013年3月改訂

[TJ-33]

出典:金匱要略

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス3.5gを含有する。

日局トウガシ	6.0g
日局トウニン	4.0g
日局ボタンピ	4.0g
日局ダイオウ	2.0g
日局無水ポウショウ...	1.8g

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

効能又は効果

比較的体力があり、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの次の諸症：
月経不順、月経困難、便秘、痔疾

使用上の注意(抜粋)

副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

*その他の使用上の注意等は最新の添付文書⁵¹をご覧ください。

ダイオウボタンピトウ 大黃牡丹皮湯の構成生薬



冬瓜子(トウガシ)



桃仁(トウニン)



牡丹皮(ボタンピ)



大黃(ダイオウ)



芒硝(無水ボウショウ)



ダイ オウ ボ タン ピ トウ
ツムラ大黃牡丹皮湯

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

TJ-33
2013年3月改訂

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)下痢、軟便のある患者〔これらの症状が悪化するおそれがある。〕
- (2)著しく胃腸の虚弱な患者〔食欲不振、腹痛、下痢等があらわれるおそれがある。〕
- (3)著しく体力の衰えている患者〔副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。〕

2. 重要な基本的注意

- (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。
- (3)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等



ダイ オウ ボ タン ビ トウ
ツムラ大黃牡丹皮湯
エキス顆粒(医療用) (薬価基準収載)

TJ-33
2013年3月改訂

使用上の注意

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

[本剤に含まれるダイオウ(子宮収縮作用及び骨盤内臓器の充血作用)、無水ボウショウ(子宮収縮作用)、トウニン、ボタンピにより流早産の危険性がある。]

(2) 授乳中の婦人には慎重に投与すること。[本剤に含まれるダイオウ中のアントラキノン誘導体が母乳中に移行し、乳児の下痢を起こすことがある。]

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

7. その他の注意

本剤には無水ボウショウが含まれているので、治療上食塩制限が必要な患者に継続投与する場合は注意すること。

大黃牡丹皮湯の使用目標

比較的体力の充実した人で、下腹部が緊張し、抵抗・圧痛があり、便秘する人で瘀血*を伴う場合。
1) 月経困難、過多月経などの月経異常のある場合。

*瘀血：漢方の一概念で、主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。
(日本医師会発行、医薬品カードより)

監修：大塚恭男、花輪壽彦



【トウガシ】



【トウニン】



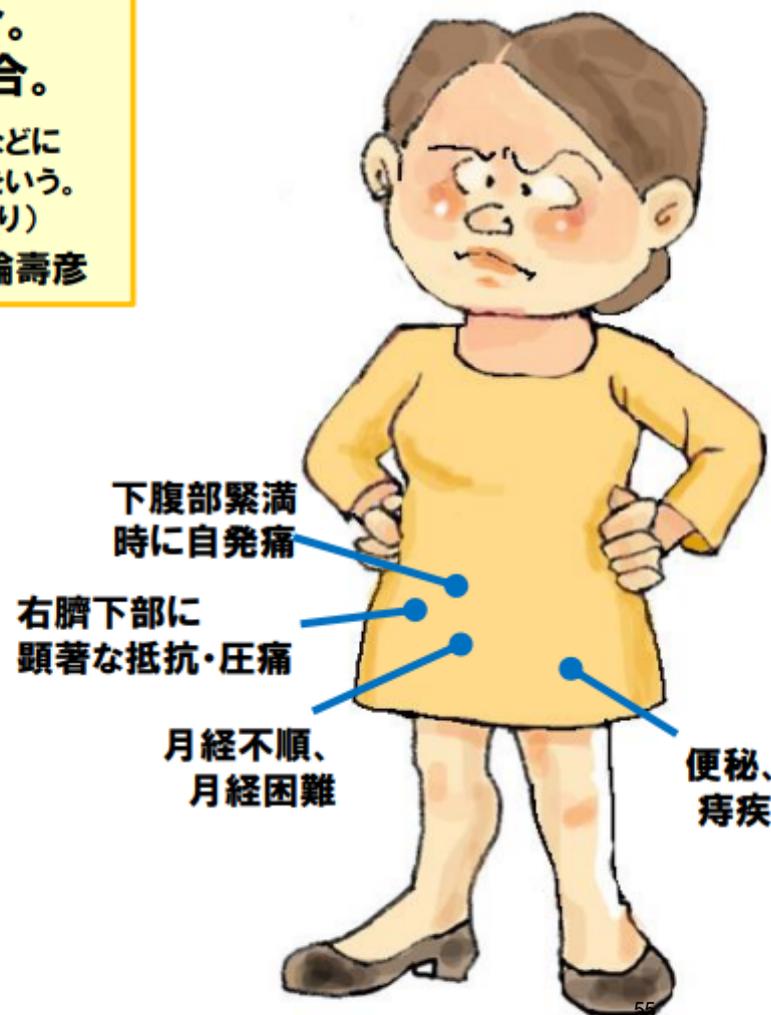
【ボタンビ】



【ダイオウ】



【ボウショウ】





ツウ ドウ サン
ツムラ通導散

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

2009年6月改訂

〔TJ-105〕

出典:万病回春

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス4.5gを含有する。

日局キジツ.....	3.0g	日局コウボク.....	2.0g
日局ダイオウ.....	3.0g	日局ソボク.....	2.0g
日局トウキ.....	3.0g	日局チンピ.....	2.0g
日局カンゾウ.....	2.0g	日局モクツウ.....	2.0g
日局コウカ.....	2.0g	日局無水ボウショウ...	1.8g

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

効能又は効果

比較的体力があり下腹部に圧痛があつて便秘しがちなものの次の諸症：
 月経不順、月経痛、更年期障害、腰痛、便秘、打ち身(打撲)、
 高血圧の随伴症状
 (頭痛、めまい、肩こり)

使用上の注意(抜粋)

重大な副作用

- 1)偽アルドステロン症
- 2)ミオパチー

ツウドウサン 通導散の構成生薬



枳実(キジツ)



大黄(ダイオウ)



当帰(トウキ)



甘草(カンゾウ)



紅花(コウカ)



厚朴(コウボク)



蘇木(ソボク)



陳皮(チンピ)



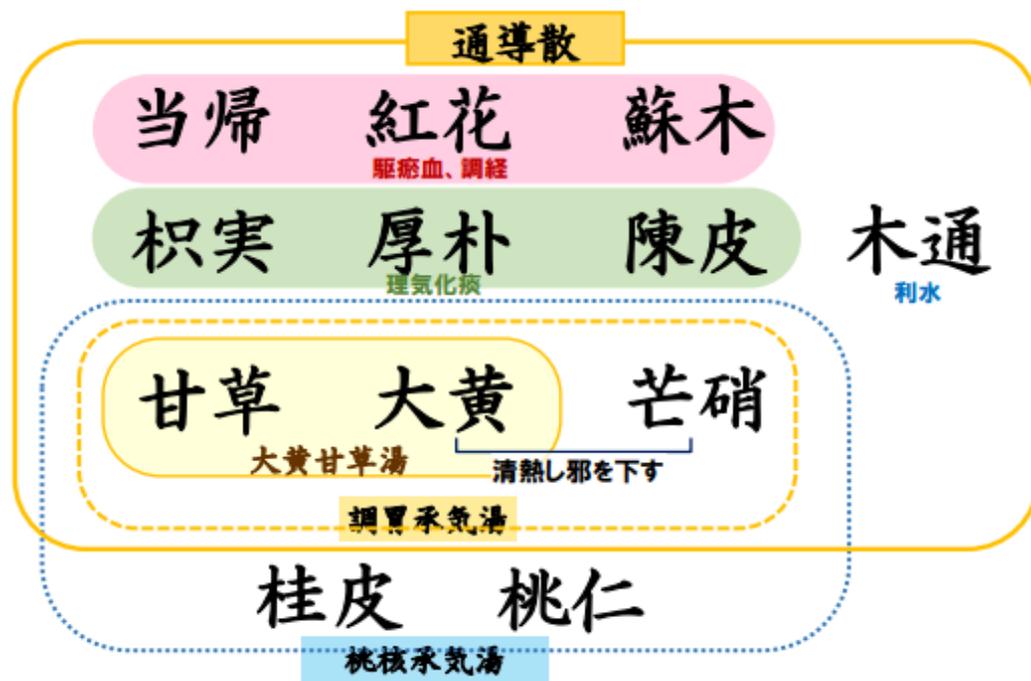
木通(モクツウ)



芒硝(無水ボウショウ)

「通導散」名称の由来

本方は、主として打撲傷、婦人科疾患及び産後の瘀血（^{オケツ}静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群）に用いられる処方である。処方名の通導^{ツウドウ}とは、この瘀血^{オケツ}及び瘀血^{オケツ}により生じた便秘、尿閉を通じ緩解する働きのあることを言っている。散^{サン}は、元は散剤であることを示している。





ツウ ドウ サン
ツムラ通導散

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

TJ-105
 2009年6月改訂

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)下痢、軟便のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある。]
- (2)著しく胃腸の虚弱な患者 [食欲不振、胃部不快感、悪心、腹痛、下痢等があらわれることがある。]
- (3)食欲不振、悪心、嘔吐のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある。]
- (4)著しく体力の衰えている患者 [副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- (2)本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- (3)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。
- (4)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、用法及び用量に注意すること。

3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
(1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。 (「重大な副作用」の項参照)	グリチルリチン酸は尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。



ツウ ドウ サン
ツムラ通導散

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

TJ-105
2009年6月改訂

使用上の注意

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

[本剤に含まれるダイオウ(子宮収縮作用及び骨盤内臓器の充血作用)、無水ボウショウ(子宮収縮作用)、コウカにより流産の危険性がある。]

(2) 授乳中の婦人には慎重に投与すること。[本剤に含まれるダイオウ中のアントラキノン誘導体が母乳中に移行し、乳児の下痢を起こすことがある。]

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

8. その他の注意

本剤には無水ボウショウが含まれているので、治療上食塩制限が必要な患者に継続投与する場合は注意すること。

通導散の使用目標

体格、体力ともに充実した人で、心窩部が苦しく圧痛を訴え、瘀血があり、便秘する場合に用いる。

- 1) 桃核承気湯に比べ、精神神経症状がより激しい場合。
- 2) 頭痛、のぼせ、不眠、不安などの精神神経症状を伴う場合。
- 3) 月経不順、月経困難症などのある婦人。

* 瘀血：漢方の一概念で主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。

監修：大塚恭男、花輪壽彦



【キジツ】



【ダイオウ】



【トウキ】



【カンソウ】



【コウカ】



【コウホク】



【ソホク】



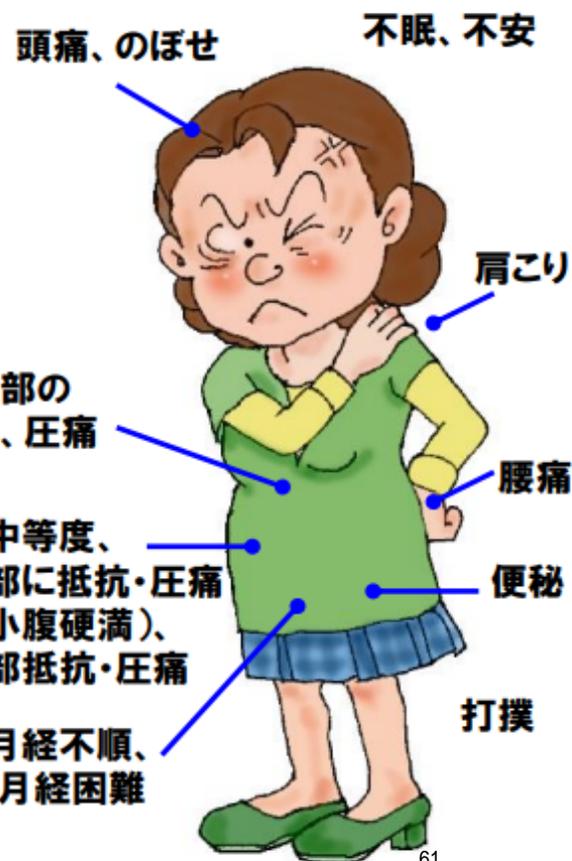
【チンピ】



【モクツウ】



【ホウショウ】



通導散 臨床応用

①打撲症・癒着やケロイド

- 桂枝茯苓丸を併用。
- 頭部外傷には疎経活血湯を併用。
- 鞭打ち症は内出血よりも筋脈の損傷が主であるため、通導散で1回下した後は疎経活血湯の方が良い。

受傷後に長く時間が経ったものには治打撲一方に附子を加えて用いる。

通導散 臨床応用

②糖尿病性合併症

- 網膜症に桂枝茯苓丸、竜胆瀉肝湯（一貫堂方）を併用
- 腎症に竜胆瀉肝湯（一貫堂方）、芍帰調血飲第一加減を併用

③更年期障害や産後の障害

- 桂枝茯苓丸、もしくは四物湯を併用

通導散 臨床応用

④皮膚疾患

・扁平性苔癬には桂枝茯苓丸を併用。乾癬は温清飲＋桂枝茯苓丸を併用。

（炎症性角化病変は慢性増殖性炎症だから、瘀血ととらえます。）

通導散 臨床応用

⑤悪性腫瘍や癌性疼痛

- ・リンパ浮腫には九味檳榔湯を併用
- ・抗ガン剤や放射線治療の副作用には補中益気湯を併用

山本巖先生は「通導散を使うと癌性疼痛が緩和される」と言われています、鎮痛目的の麻薬などによる便秘の副作用にも良いと推測されます。

実際は、通導散加**桃仁**＋**牡丹皮**として臨床応用する。
医療用で代用する場合：通導散＋**桂枝茯苓丸**

芎帰調血飲第一加減

【処方コンセプト】疲れやすくて、イライラして、手足が冷える方。

◆産前産後の漢方薬として、産前(妊娠中)には当帰芍薬散、産後(出産後)には芎帰調血飲第一加減がファーストチョイスになる。本方は産後の聖薬。

◆通導散(つうどうさん)とは表裏の関係にあり、どちらも気血のめぐりが悪いものに用いる。実証・熱証には通導散、虚証・冷えには本方を用いる。

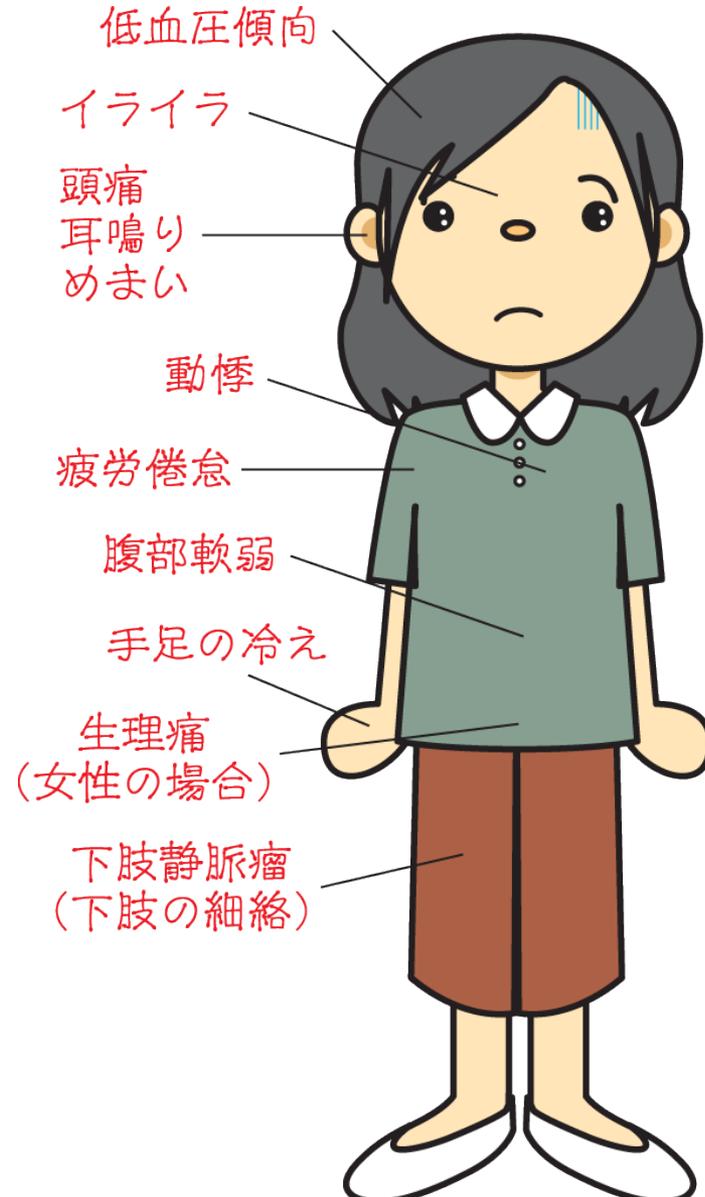
芎帰調血飲第一加減

◆産後には血脚気(足が立たないなど)、慢性関節リウマチ、気管支喘息をはじめ、いろいろな病気・症状が起きる。数年前の出産でも、産後に起きて瘀血(血の巡りが悪い状態)が原因と考えられる病気には用いてよい。

◆月経異常、子宮筋腫、子宮内膜症、更年期障害、血の道症など婦人科疾患にも広く応用される。また、頭痛、肩こり、耳鳴り、動悸などを訴え、血の巡りが悪く冷えているタイプに広く用いられる。

芎帰調血飲第一加減

◆血の巡りを改善する作用があることから、男女を問わず、虚血、うっ血などを伴う循環器疾患や下肢静脈瘤などに用いられる。



芎帰調血飲第一加減

四物湯

トウキ
センキュウ
シャクヤク
ジオウ

補血調経

トウニン
コウカ
ボタンピ
ヤクモソウ
ゴシツ

活血化瘀

エンゴサク
モッコウ
ウヤク
コウブシ
キジツ
チンピ

理気止痛

ビヤクジュツ
ブクリョウ
タイソウ
カンゾウ

補気健脾

ケイヒ
カンキョウ

温裏祛寒

(トウキ・センキュウと協力して全体を温める)

医療用で代用する場合：芎帰調血飲(クラシエ) + 桂枝茯苓丸[®]

駆瘀血剤 類方鑑別

処方名	類方鑑別
芎帰調血飲 第一加減	気滞血瘀を改善する代表処方。疲れやすく、イライラして、手足が冷える方に。産後や術後の瘀血によい。
桂枝茯苓丸	瘀血のファーストチョイス。軽い打撲でも<u>うっ血</u>しやすく、<u>下腹部に痛みを訴える</u>。アザやシミ、シモヤケにも。
加味逍遙散	神経を使うために何となく<u>イライラ</u>する。女性では生理が一定せず、生理前になると体調を崩す。
当帰芍薬散	<u>冷え症の女性</u>に。むくみやすく、生理不順のある方。痛みのない膀胱炎や産前の保健薬として。
通導散	瘀血の<u>実証、熱証</u>に用いる。便秘傾向の人に。

主な駆瘀血剤

虚実	方剤	瀉下	駆瘀血	その他特徴
<p>実証</p>	桃核承気湯	◎	◎◎	イライラ、易怒などの精神神経症状や、 <u>冷えのぼせ</u> （顔面は紅潮していることが多い）などの気逆症状にも良い。
	通導散	◎	◎◎	<u>腹部膨満</u> 、 <u>胸苦しい</u> などの気滞症状に良い。
	大黄牡丹皮湯	○	◎◎	顔面はあまり赤みがない、青黒いことが多い。消化管の炎症にも良い。
	腸癰湯	×	◎	大黄牡丹皮湯に似るが、便秘はない。消化管炎症にも良く、 <u>血便・膿血便</u> を伴う場合にも。また、瘀血に伴う <u>皮膚症状</u> にも良い。
	桂枝茯苓丸	×	◎	<u>冷えのぼせ</u> を伴うことが多い。
	加味逍遙散	×	○	のぼせなど <u>熱傾向</u> が強い。 <u>多愁訴・不定愁訴</u> のケースや、 <u>イライラ・不眠</u> など精神神経症状を伴うケースが多い。
	当帰芍薬散	×	○	<u>冷え</u> や <u>浮腫</u> 、 <u>眩暈</u> 、 <u>顔色不良</u> などを伴う。
虚証				

血虚

生体の物質的基盤である血が不足した病態です。
まずは血液が不足する状態として

- ・貧血症状 ・白血球、血小板の減少
- ・顔色が蒼白、痿黄（薄暗く黄色い）

が血虚の代表的症状のひとつです。

また、血の「全身に栄養を補給する」「全身を潤す」働きが不足するので

- ・肌の乾燥 ・爪の異常（もろい、割れる、凹む、筋が多い等）
- ・髪が抜けやすい、細い ・傷が治りにくい ・痩せすぎ

なども現れ、特に爪の異常は重要な所見です。

血（肝血）は筋肉の正常な動きにも必要なため、血虚になると

- ・こむら返り（を起こしやすい）

などにもつながります。

また、血は精神活動とも関連が深く

- ・不眠（特に熟眠障害、多夢、中途覚醒） ・動悸

も血虚の代表的な所見です。

血虚に効果のある生薬 補血薬

補血薬: 身体を作り上げる材料となる「**血**」を補い、
栄養状態と局所組織障害を改善し身体を温め、潤す生薬



地黄(ジオウ)



芍薬(シャクヤク)



川芎(センキュウ)



当归(トウキ)

血虚に効果のある生薬 地黄



乾地黄 (寒性) : 主作用 = 滋陰・消炎解熱・止血・、緩下、強心

熟地黄 (微寒性) : 主作用 = 補血・滋陰、緩下、強心

※地黄の根を乾燥し酒に浸けて蒸してつくる。この加工により、消炎解熱作用や止血作用は少なくなり滋陰作用が強くなる。

ジ　　オウ 地　　黄

【性味】　　甘苦、涼(乾地黄)、甘、微温(熟地黄)。

【薬能】　　清熱滋陰、涼血、潤腸便通(乾地黄)、
補血、滋陰、潤腸便通(熟地黄)。

血虚や体液の不足を補い、腎の機能を回復させる。腸を潤し便を通じる。

【配合処方】　牛車腎気丸、八味地黄丸、六味丸、四物湯、潤腸湯など。

根の断面が「黄色い」

ことから「地黄」といわれる。

日局16では乾地黄、熟地黄の
区別をしていなかったが、

日局17では性状と確認試験は
それぞれに記載している。



【乾地黄】



【熟地黄】



血虚に効果のある生薬 芍薬



赤芍 (微寒性) : 主作用 = 血行促進、駆瘀血、血熱を冷ます

※補薬として用いる場合や胃腸症状に対して→白芍

※活血薬として用いる場合や腫れ物などの痛みに→赤芍

シャク 芍

ヤク 薬

【性味】 苦酸、涼。

【薬能】 補血、駆瘀血、緩急止痛。

四肢及び腹部の緊張を緩和、鎮痙・鎮痛に働く。血を養い瘀血を除く。

【配合処方】 温経湯、桂枝加芍薬湯、桂枝茯苓丸、芍薬甘草湯、折衝飲、当帰芍薬散、麻子仁丸など。

「芍」は「輝くような」花の意味で、美しさを表す。牡丹を百花の王を意味する「花王」と呼ぶのに対し、芍薬は花の宰相、「花相^{かしょう}」とも呼ばれる。



血虚に効果のある生薬 川芎



**川芎 (寒性) : 主作用 = 血行促進 (特に上半身・頭部)、
子宮筋弛緩を収縮させる**

【薬能】

末梢の血管を拡張し四肢の血行を良くして、しびれ、麻痺、痛みを止める。腹中も温めるが、腰から上を特に温め、ことに頭部の血流を良くするため脳貧血や血管痙攣による頭痛を治す。(処方例:川芎茶調散)

冠状動脈の血流を良くして狭心症の胸痛を治す(処方例:冠心II号方)

セン 川

キユウ 芎

【性味】 辛、温。

【薬能】 活血、行気、調経、止痛。

血行を促し、沈滞した気を巡らせ、月経不順や腹痛を改善する。
風邪湿邪を除き、冷えに伴う痛みを除く。

【配合処方】 温経湯、芎帰調血飲、四物湯、川芎茶調散、当帰芍薬散など。

「神農本草経」は「^{きゅうきゅう}芎藭」で
記載。「芎」も「藭」も
葉柄が弓のように曲がった
様を表す文字といわれる。
^{しせん}四川産のものが良品とされた
ために「川芎」の名が一般化
したと思われる。



血虚に効果のある生薬 当帰



当帰 (温性) : 主作用 = 血行促進、月経調整、子宮筋攣縮の緩和

【薬能】

当帰は古来、婦人の聖薬とされ、血流を良くし子宮の発育を促し、子宮筋の痙攣や収縮があればこれを弛緩させる。

局所作用だけでなく上位の神経系などに作用し、自律神経や内分泌系を介して作用する、と考える。月経不順、月経痛などを治す。

当帰を服むと下肢から温まり、男子より女子の方が良く効く。お腹を温め、四肢抹消に作用し動脈側の血行を良くし疼痛を軽減する。

トウ 当 帰

【性味】 甘辛、温。

【薬能】 補血調経、活血、回陽散寒、止痛、通便。

血を補い陽気を巡らし、調経する。身体を温め、冷えや痛みを治す。
通便を図る。

【配合処方】 温経湯、帰耆建中湯、四物湯、当帰芍薬散、抑肝散など。

「神農本草経」中品に収載。

婦人の気血を調える要薬であり、

名称の由来には、病身の嫁が

まさ
「**当**に婚家に**帰**る」ことができた

とか、反対に浮気した夫が

まさ
「**当**に**帰**ってきた」等諸説がある。



血虚の基本処方 四物湯(出典:和剤局方)

血を補い(補血)、血をめぐらし(活血)、潤す(滋陰)ことで、
血虚の症状を改善する基本法剤。

色々な生薬と組み合わせたり、様々な処方に配合される。



ジオウ
地黄



シャクヤク
芍薬



トウキ
当归



センキュウ
川芎

・活血、消炎、止血、滋養、調経作用



シ モツ トウ
ツムラ四物湯

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

2007年5月改訂
 [TJ-71]
 出典:和剤局方

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス2.75gを含有する。

日局ジオウ.....	3.0g
日局シャクヤク.....	3.0g
日局センキュウ.....	3.0g
日局トウキ.....	3.0g

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
 なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

効能又は効果

皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人の次の諸症：
 産後あるいは流産後の疲労回復、
 月経不順、冷え症、しもやけ、しみ、
 血の道症

使用上の注意(抜粋)

副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等



シ モツ トウ
ツムラ四物湯

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

TJ-71
2007年5月改訂

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1) 著しく胃腸の虚弱な患者

[食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等があらわれることがある。]

(2) 食欲不振、悪心、嘔吐のある患者 [これらの症状が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

(1) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。

(2) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、下痢等

シモツトウ 四物湯の構成生薬



地黄(ジオウ)



芍薬(シャクヤク)



川芎(センキュウ)



当帰(トウキ)

四物湯の使用目標

比較的体力の低下した人で、手足の冷え、諸種の出血や貧血の徴候があり、皮膚の乾燥傾向のある場合に用いる。

- 1) 月経不順、自律神経失調症状などを伴う婦人。
- 2) 腹部軟弱で臍傍に動悸を触れる場合。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



〔ジウウ〕



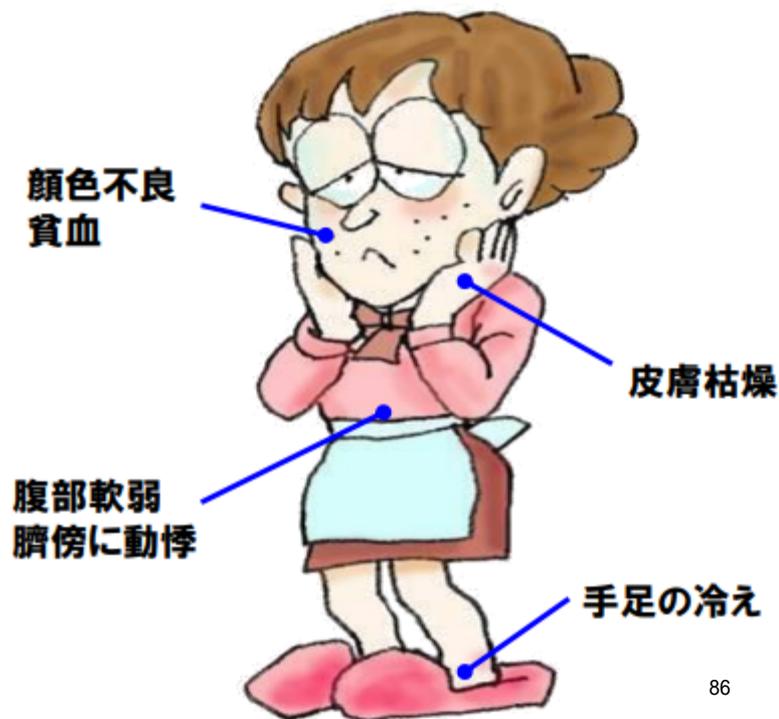
〔シャクヤク〕



〔トウキ〕



〔センキュウ〕



「四物湯」の処方構造

川芎

血行を良くする
(活血作用)

当帰

芍薬

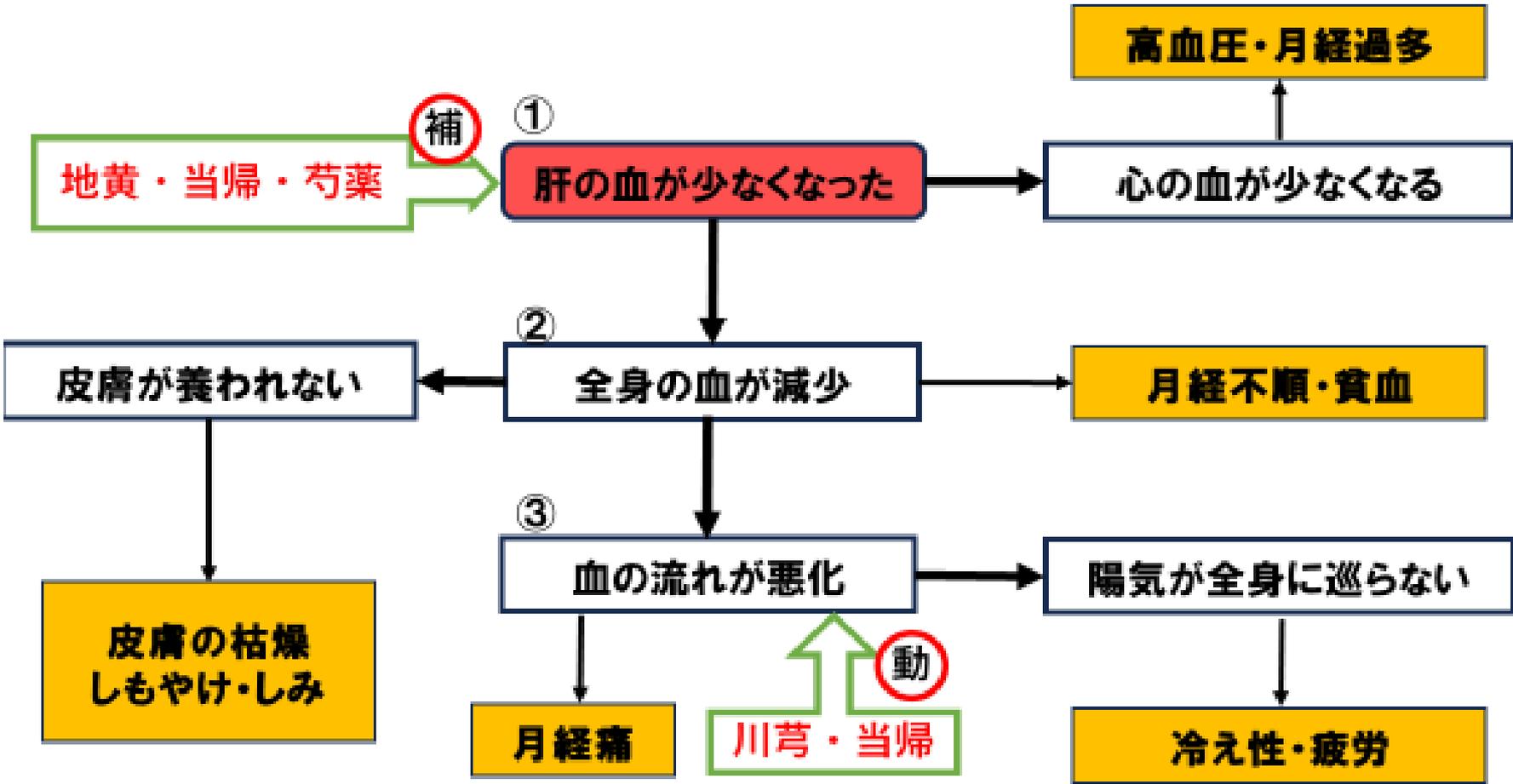
消炎止血作用、
慢性炎症に(陰虚)

地黄

月経調節
(自律神経・内分泌系の調整)
皮膚・筋肉・骨の萎縮に
(滋養作用)

四物湯

四物湯 処方のおくみ



添付文書から見た四物湯

【効能又は効果】

皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で
胃腸障害のない人の次の諸症：

産後あるいは流産後の疲労回復、
月経不順、冷え症、しもやけ、しみ、
血の道症

四物湯 服薬指導のポイント

- この処方単独で用いられることはあまりなく、他の処方と併用されることが多い。
- 多くは女性に用いられることが多いが、男性に用いられることもある(皮膚疾患など)。
- 皮膚疾患が治療対象のときには消風散や当帰飲子などが併用されることがある。
- 即効性はなく、数か月にわたる服用になることが多い。
- 胃腸障害を起こしやすいので注意する→地黄の副作用
服用時間を食後にするなどの方法で対応できることがある

四物湯 臨床応用

・ **四物湯**を含む処方がある精神症状(不登校など)を改善

四物湯 + 苓桂朮甘湯 = 連珠飲

四物湯 + 釣藤鈎・黄柏・黄耆 = 七物降下湯

何らかのストレスによって気逆、瘀血、水毒などを介し、消耗した結果、血虚の病態を呈していると考えられる。

従って、血虚のみを治療することは稀であり、**四物湯**は多くの処方の中に含有され、あるいは併用することで効果を発揮する。

「**四物湯**を含む処方が精神症状を改善した6症例」(田原英一ほか)より

四物湯 臨床応用

・神田橋処方

四物湯＋桂枝加芍薬湯

薬物療法が不可能とされてきた、PTSDとかフラッシュバックといった難しい病態に、珍しく効果があると言われている処方。

胃薬として使われてきた薬(桂枝加芍薬湯)と、冷え性などで使われてきた薬(四物湯)を同時に服用する処方です。

四物湯 適応病態の歴史的変遷

第一段階

- ・ 四物湯の出発点は、『金匱要略』の芎歸膠艾湯。
婦人の性器出血に対する止血剤として用いられたのが始まり。
※ 芎歸膠艾湯：四物湯(当歸・川芎・芍薬・地黄) + 阿膠 + 艾葉 + 甘草

第二段階

- ・ 婦人の聖薬としての四物湯『和剂局方』。
四物湯を月経異常・妊娠中・出産・産後に用いた。

第三段階

- ・ 血虚の基本方剤としての四物湯。
 - ① 皮膚の老化・委縮に用いる
 - ② 四肢の運動麻痺・知覚麻痺・筋肉委縮に用いる
 - ③ 栄養障害・脱水症に用いる
 - ④ 血虚の熱に用いる



キュウ キ キョウ ガイ トウ

ツムラ芎帰膠艾湯

エキス顆粒(医療用)

(薬価基準収載)

2013年3月改訂

[TJ-77]

出典:金匱要略

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者 2. ミオパチーのある患者 3. 低カリウム血症のある患者
[1~3:これらの疾患及び症状が悪化するおそれがある。]

組成

本品9.0g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス6.0gを含有する。

日局ジオウ 5.0g	日局カンゾウ 3.0g
日局シャクヤク 4.0g	日局センキュウ 3.0g
日局トウキ 4.0g	アキョウ 3.0g
日局ガイヨウ 3.0g		

効能又は効果

痔出血

用法及び用量

通常、成人1日9.0gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

使用上の注意(抜粋)

重大な副作用

- 1)偽アルドステロン症
- 2)ミオパチー

芍帰膠艾湯の構成生薬



地黄(ジオウ)



芍薬(シャクヤク)



当帰(トウキ)



甘草(カンゾウ)



川芎(センキュウ)



阿膠(アキョウ)



艾葉(ガイヨウ)

芍帰膠艾湯の使用目標

比較的体力の低下した人で痔出血、下血などがある場合に用いる。

1) 出血が長びいて、貧血やめまい、手足の冷えなどを伴う場合。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



【シオウ】



【シャクヤク】



【トウキ】



【ガイヨウ】



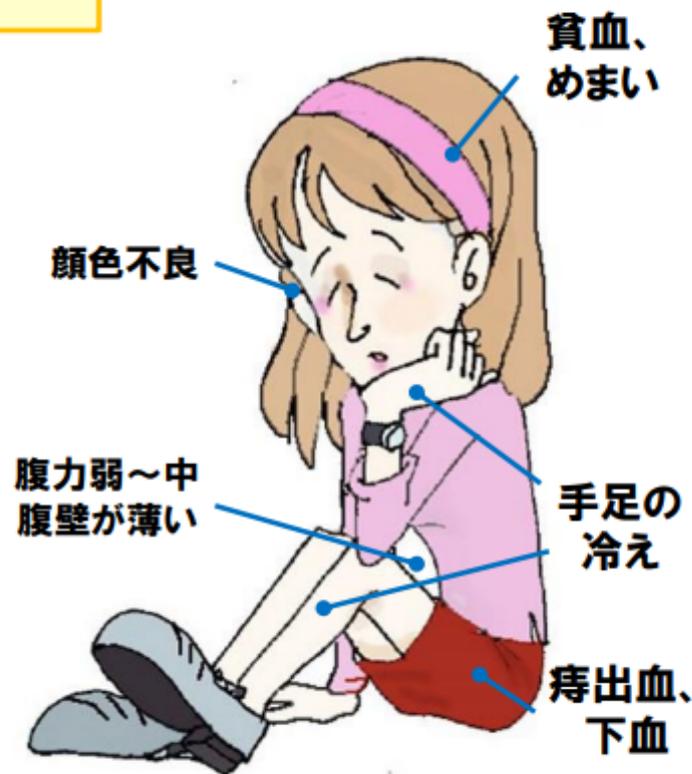
【カンソウ】



【センキュウ】



【アキョウ】



四物湯と芎帰膠艾湯

- 芎帰膠艾湯の地黄・芍薬・阿膠・艾葉は止血剤であり、阿膠・艾葉のない四物湯でも止血作用があり、出血の強い時は芎帰膠艾湯と使う。
- 阿膠で止血作用の強いのは褐色の汚いのが良くて、きれいなゼラチンは作用が弱い。したがってゼラチンの入った芎帰膠艾湯のエキスは阿膠・艾葉を除いた四物湯とその効果に大きな差はない。

四物湯 関連処方

- **当帰芍薬散**: 月経痛、不妊症、流産予防、水滞による冷え症や浮腫に用いる
- **十全大補湯**: 補中益気湯を使う目的で、さらに瘦せて枯れて冷えやすい者に用いる
- **温清飲**: 慢性炎症性疾患の基本方剤として用いる
- **疎経活血湯**: 適応病態は血虚・瘀血・水湿・痛み
- **当帰飲子**: 肌が乾燥して痒みのある皮膚疾患、老人性乾皮症に適応

漢方の構成生薬は骨格で覚える！

四物湯の関連処方

補血の基本処方

四物湯－(地黄)
当帰・川芎・芍薬

利水の基本処方

五苓散－(桂枝、猪苓)
沢瀉・茯苓・白朮

当帰芍薬散

=

+

十全大補湯

=

四物湯
当帰・川芎・芍薬・地黄

+

補気の基本処方

四君子湯
人参・茯苓・白朮・甘草

+ 黄耆・肉桂

温清飲

=

四物湯
当帰・川芎・芍薬・地黄

+

清熱の基本処方

黄連解毒湯
黄連・黄芩・黄柏・山梔子

当帰飲子

=

四物湯
当帰・川芎・芍薬・地黄

+

蒺藜子、防風、荊芥、何首烏、
黄耆、甘草

四物湯 関連処方構成生薬

	当帰 (補血)	芍薬 (補血)	地黄 (補血)	川芎 (駆瘀血)	黄耆 (補気)	甘草 (補気)	人参 (補気)	朮 (補気・利水)	茯苓 (利水)	沢瀉 (利水)	黄連 (清熱)	黄芩 (清熱)	黄柏 (清熱)	山梔子 (清熱)	桂皮 (理気)	陳皮 (理気)	桃仁 (駆瘀血)	生姜 (健胃)	
四物湯	○	○	○	○															
芎帰膠艾湯	○	○	○	○		○													+阿膠・艾葉
当帰芍薬散	○	○		○				○	○	○									
十全大補湯	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○				
	四物湯				四君子湯														
温清飲	○	○	○	○							○	○	○	○					
	四物湯									黄連解毒湯									
疎経活血湯	○	○	○	○		○		○	○							○	○	○	+防已・羌活・防風・白芷 ・威靈仙・午膝・竜胆
当帰飲子	○	○	○	○	○	○													+何首烏・防風・荊芥・蒺藜子



ツムラ当帰芍薬散

エキス顆粒(医療用)

薬価基準収載

2014年10月改訂

[TJ-23]

出典:金匱要略

組成

本品7.5g中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス4.0gを含有する。

日局シャクヤク	4.0g
日局ソウジュツ	4.0g
日局タクシャ	4.0g
日局ブクリョウ	4.0g
日局センキュウ	3.0g
日局トウキ	3.0g

用法及び用量

通常、成人1日7.5gを2～3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。
なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

効能又は効果

筋肉が一体に軟弱で疲労しやすく、腰脚の冷えやすいものの次の諸症:

貧血、倦怠感、更年期障害(頭重、頭痛、めまい、肩こり等)、月経不順、月経困難、不妊症、動悸、慢性腎炎、妊娠中の諸病(浮腫、習慣性流産、痔、腹痛)、脚気、半身不随、心臓弁膜症

使用上の注意(抜粋)

副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

	頻度不明
過敏症	発疹、痒痒等
肝 臓	肝機能異常(AST(GOT)、ALT(GPT)等の上昇)
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢等

*その他の使用上の注意等は最新の添付文書をご覧ください。

当帰芍薬散の使用目標

比較的体力の低下した成人女子に用いられることが多く、一般に冷え症で貧血傾向があり、性周期に伴って軽度の浮腫、腹痛などを呈する場合に用いる。

- 1) 全身倦怠感、四肢冷感、頭痛、めまい、耳鳴、肩こり、心悸亢進などの症状を訴える場合。
- 2) 無月経、過多月経、月経困難など、月経異常のある婦人。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



〔シャクヤク〕



〔ソウジュツ〕



〔タクシャ〕



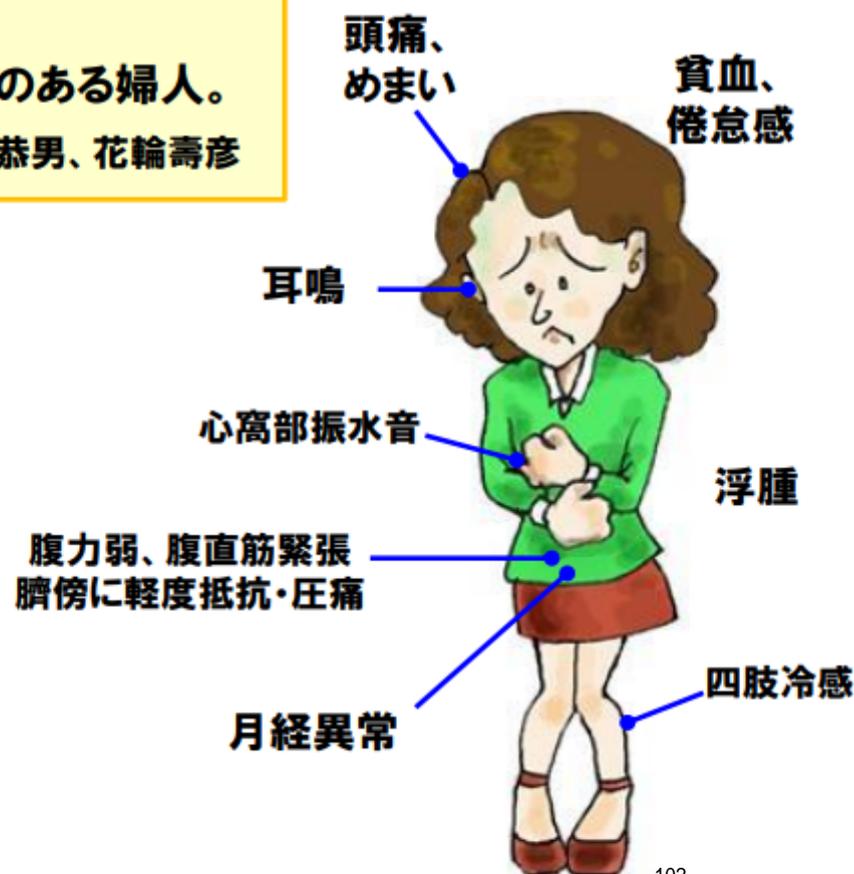
〔ブクリョウ〕



〔センキュウ〕



〔トウキ〕



十全大補湯の使用目標

病後、術後あるいは慢性疾患、高齢者の虚弱(フレイル)などで、疲労衰弱している場合に用いる。

- 1) 全身倦怠感、食欲不振、顔色不良、皮膚乾燥、貧血などを伴うことが多い。
- 2) 盗汗、口内乾燥感などを伴う場合。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



[オウギ]



[ケイヒ]



[ジオウ]



[シャクヤク]



[センキュウ]



[ソウジュツ]



[トウキ]



[ニンジン]



[ブクリョウ]



[カンゾウ]

全身倦怠感
易疲労感

盗汗

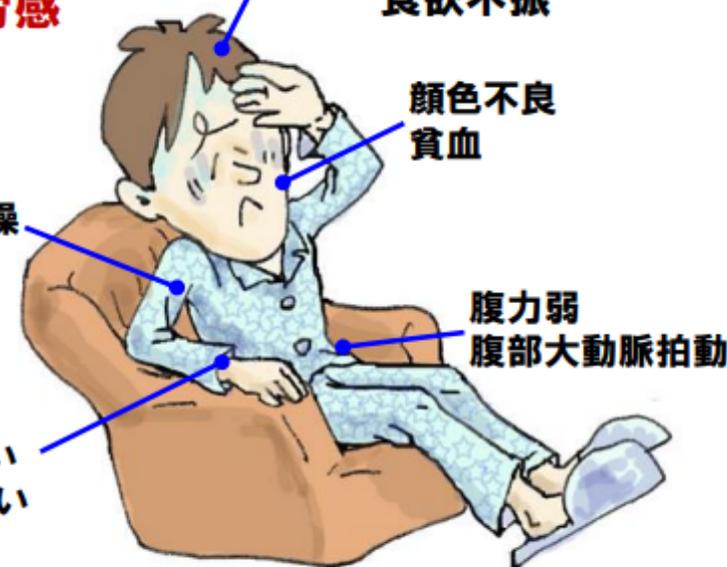
食欲不振

顔色不良
貧血

皮膚乾燥

腹力弱
腹部大動脈拍動

脈は弱い
ことが多い



「十全大補湯」名称の由来

人参+黄耆を含む補剤の代表的処方の一つ。気を補う基本処方である四君子湯(人参・朮・茯苓・甘草)と血を補う基本処方の四物湯(当帰・芍薬・川芎・地黄)に桂皮と黄耆を加えた10種の生薬で構成されている。



気血ともに不足し、抗病力が
ひどく低下した病態に用いて、
その抗病力を、
「十全(万全)」に
「大いに」「補う」方剤
という意味である。

温清飲の使用目標

体力中等度の人で、不安、不眠、のぼせなどの精神神経症状があり、出血傾向を伴う場合に用いる。

- 1) 皮膚は黄褐色を呈し、乾燥していることが多い。
- 2) 下血のある場合や、婦人では子宮出血や月経過多で出血の多い場合。
- 3) 発熱、熱感があつて癢痒感が強く、分泌物の少ない皮膚症状を伴う場合。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



【ジオウ】



【シャクヤク】



【センキュウ】



【トウキ】



【オウゴン】



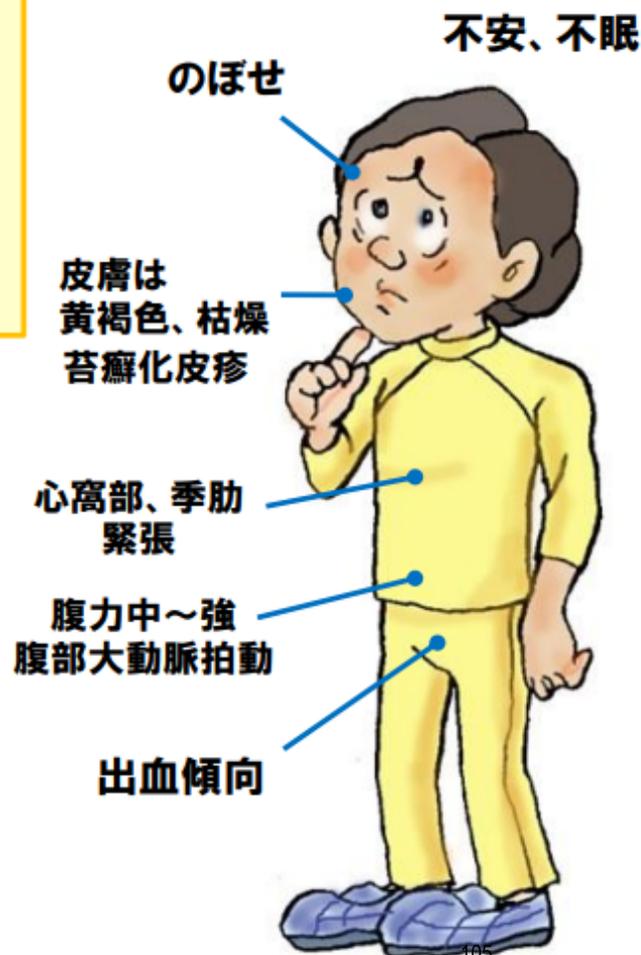
【オウバク】



【オウレン】



【サンシ】



「温清飲」名称の由来

四物湯(血虚の代表処方)と黄連解毒湯(清熱解毒)の合方
下血を伴う女性の月経関連疾患に用いられる。



身体を「**温め**」血を補う四物湯の
作用と、「**熱を清まし**」、
消炎解毒する黄連解毒湯の作用を
組み合わせたことに由来。

「**飲**」は煎じたものを冷服する
ことを意味するという。

疎経活血湯の使用目標

体力中等度の人で、腰部より下肢にかけての筋肉、関節、神経が痛む場合に用いる。

1) 冷えにより増悪することが多い。

2) 瘀血*を伴う場合。

*瘀血: 漢方の一概念で、主として婦人科疾患、出血性疾患などに起こり、静脈系のうっ血、出血などに関連した症候群をいう。

監修: 大塚恭男、花輪壽彦



[シャクヤク]



[ジオウ]



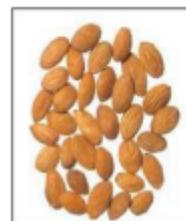
[センキュウ]



[ソウシュツ]



[トウキ]



[トウニン]



[ブクリョウ]



[イレイセン]



[キョウカツ]



[ゴシュツ]



[チンビ]



[ボウイ]



[リュウタン]



[ボウフウ]



[カンソウ]



[ビャクシ]



[ショウキョウ]



「疎経活血湯」名称の由来

疎経活血湯は、血を補う基本処方である四物湯を骨格とし、血を巡らす生薬、水分代謝を調整する生薬、止痛作用がある生薬などを組み合わせた方剤。血虚に加え、冷えや瘀血(末梢循環障害)がある人の、腰から下の筋肉痛・関節痛・神経痛に用いられる。



筋の「^{けいみやく}経脈」(血や水の通り道)
を「^{とお}疎し」、「血」の
「巡りをよくする」方剤
という意味。

当帰飲子の使用目標

比較的体力の低下した人の皮膚疾患で、癢痒を主訴とし分泌物の少ない場合に用いる。

- 1)皮膚が乾燥して湿潤していない場合。
- 2)老人に適用されることが多い。

監修:大塚恭男、花輪壽彦



【トウキ】



【ジオウ】



【シツリシ】



【シャクヤク】



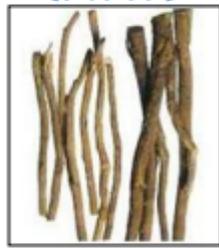
【センキュウ】



【ポウフウ】



【カシュウ】



【オウギ】



【ケイガイ】



【カンゾウ】

軽度の貧血傾向

乾燥してざらざらし、軽度の発赤、癢痒感が特徴



「当帰飲子」名称の由来

本方は10種類の生薬から構成されており、
その主薬である当帰^{トウキ}の名をとって、名付けられた。
飲^{イン}は冷服を指示し、子^シは頻回に服用することを指示するという
解釈と音韻の収まりを良くするためにつけたという説がある。

当帰飲子

何首烏

当帰

地黄

補血滋陰

川芎

芍薬

四物湯

蒺藜子

防風

荊芥

去風止痒

黄耆

甘草

補気



トウキ



四物湯 臨床応用

・**四物湯**を含む処方が精神症状(不登校など)を改善

四物湯 + 苓桂朮甘湯 = 連珠飲

四物湯 + 釣藤鈎・黄柏・黄耆 = 七物降下湯

何らかのストレスによって気逆、瘀血、水毒などを介し、消耗した結果、血虚の病態を呈していると考えられる。

従って、血虚のみを治療することは稀であり、**四物湯**は多くの処方の中に含有され、あるいは併用することで効果を発揮する。

「**四物湯**を含む処方が精神症状を改善した6症例」

(田原英一ほか)

四物湯 臨床応用

・神田橋処方

四物湯＋桂枝加芍薬湯

薬物療法が不可能とされてきた、PTSDとかフラッシュバックといった難しい病態に、珍しく効果があるとされている処方

胃薬として使われてきた薬（桂枝加芍薬湯）と、冷え性などで使われてきた薬（四物湯）を同時に服用する処方です。

ダイ 大

オウ 黄

【性味】 苦、寒。

【薬能】 瀉下、清熱、驅瘀血。

胃腸系の炎症を除き、便通を図り、瘀血を除く。

【配合処方】 茵陳蒿湯、乙字湯、三黄瀉心湯、潤腸湯、大黄甘草湯など。



「**大黄**」は形が大きく、
黄色い根茎を持つ植物の意味。
薬効が峻烈で、速いため
別名を「**將軍**」^{しょうぐん}といい、
特に良品とされた四川産の
ものは「**川軍**」^{せんぐん}と呼ばれた。

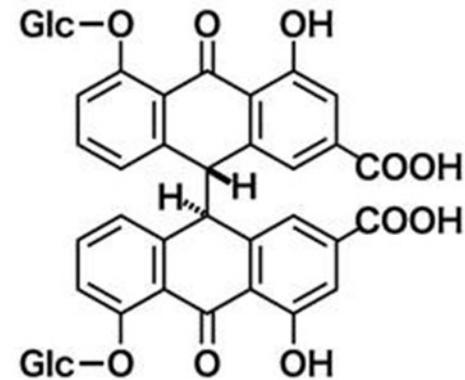
薬用部位：根茎



大黃の薬理と活性成分

[抗菌, 抗真菌作用]	アロエエモジン
[抗腫瘍活性]	レイン, エモジン
[瀉下作用]	レイノシド, センノシド
[消炎鎮痛作用]	リンドレイン
[向精神作用]	RG-タンニン
[抗腎不全作用]	エピカテキン, プロシアニジンジガレート

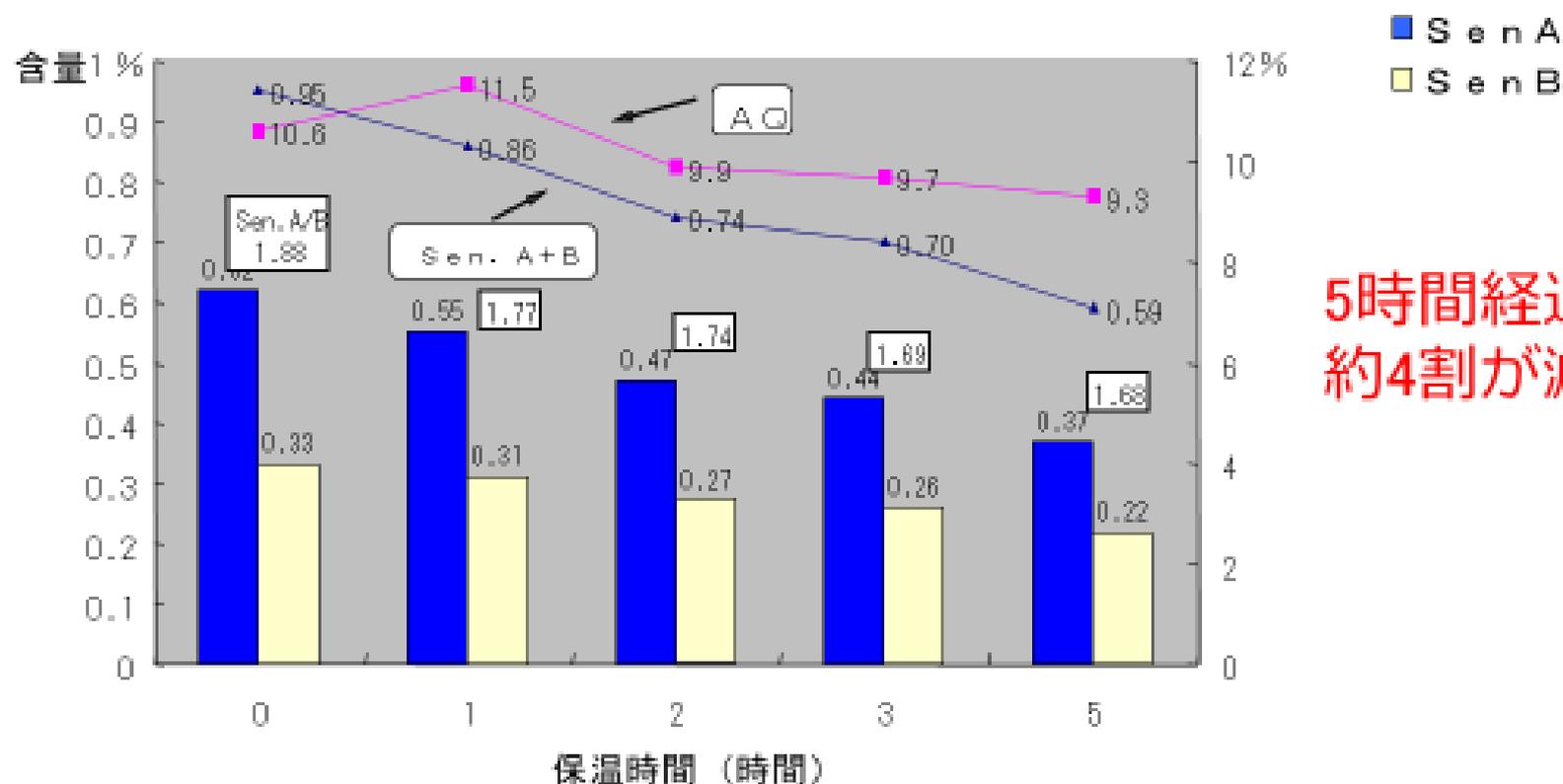
主要成分



センノシドA(薬理作用:瀉下)

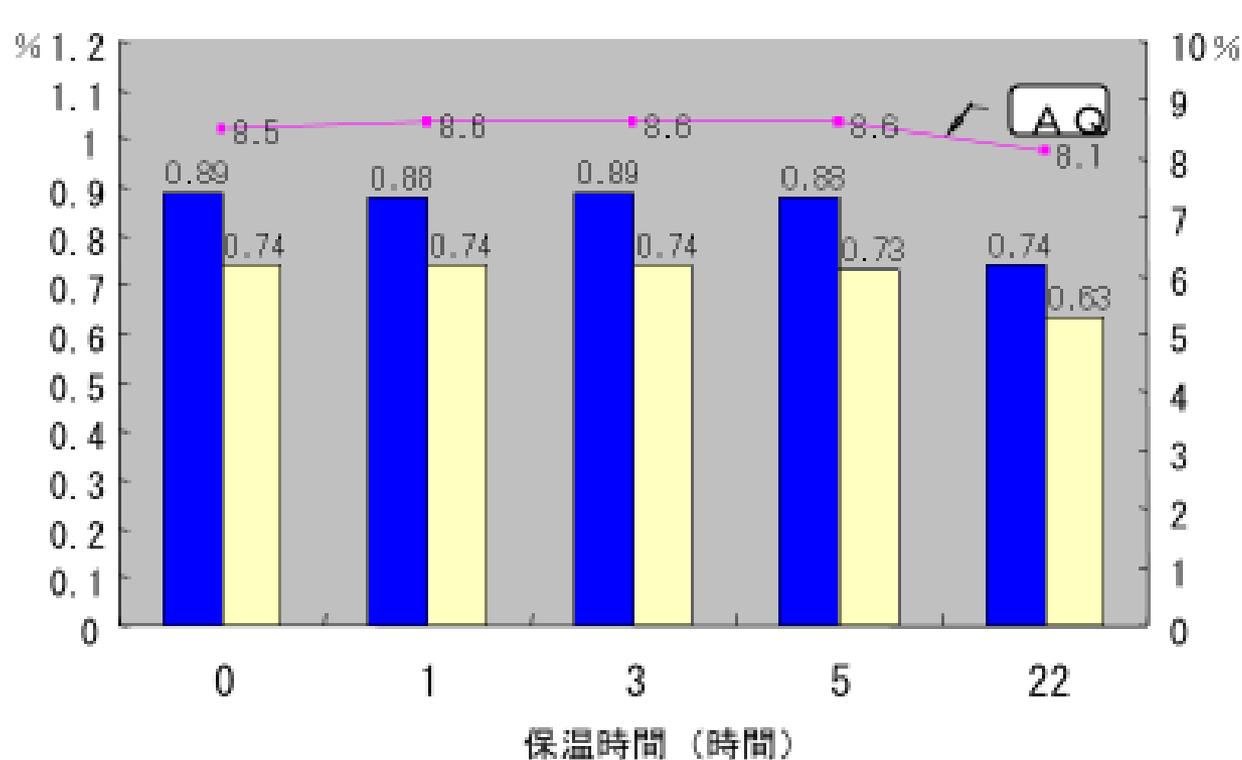
大黃中のセンノシドと温度の関係(1)

大黃抽出液を85°Cで保温した場合



大黄中のセンノシドと温度の関係(2)

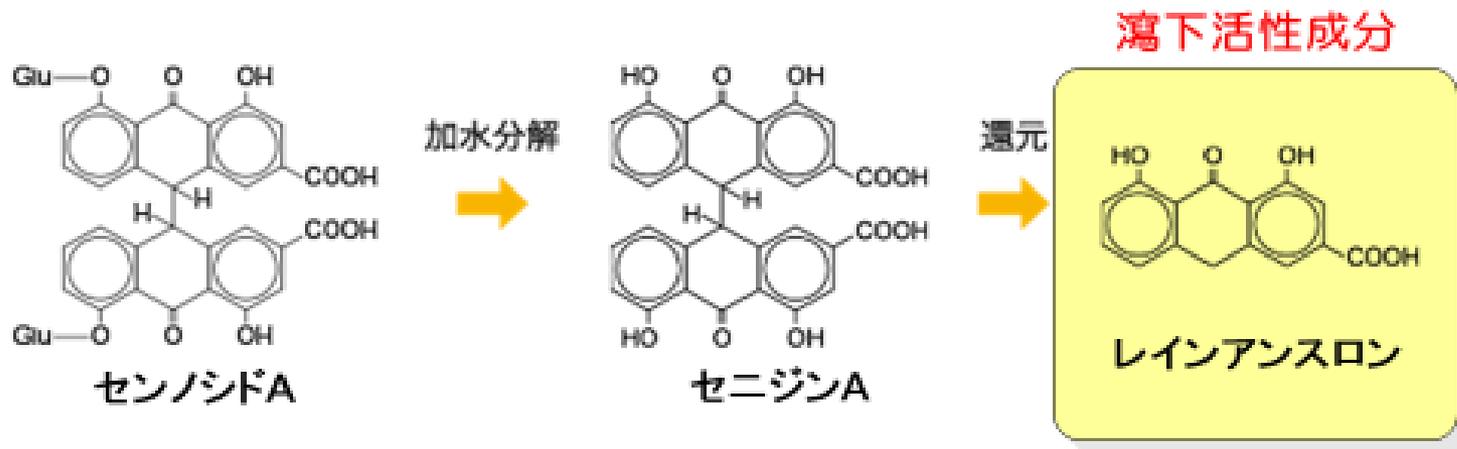
大黄抽出液を60°Cで保温した場合



5時間経過後も
ほとんど分解
していない

センノシドの代謝

腸内細菌によるセンノシドAの代謝経路



腸内細菌には個人差があるため
レインアンスロン代謝量に個人差が生じる

||

センノシド感受性の違い

現代における運用のポイント

(1) 通便作用

瀉下作用によって腸中の食物積滞および便秘を治す。

(2) 清熱作用

通便をはかりながら、かつ胃腸の炎症を鎮める。

(3) 驅瘀血作用

通便をはかりながら、血熱を鎮め、瘀血を除く。

(4) 鎮静作用

血熱：瘀血で炎症の強いもの、および温病で熱が血分に入った状態
(通常血便、吐血などの出血が伴う)

配合応用

大黃＋芒硝：

陽明病および胃腸の炎症による**乾燥性便秘**、胸腹部の煩悶、うわ言を伴う高熱、口渇を治す。

（桃核承気湯、調胃承気湯）

大黃＋黄連：

実熱による脳充血・結膜炎・口内炎・上気道炎など**上半身の諸充血性炎症**、鼻出血・吐血・痔出血・子宮出血などの**諸出血**、煩躁・不眠などの神経興奮、および虫垂炎などの化膿性炎症、宿便を治す。（三黄瀉心湯）

配合応用

大黄＋茵陳蒿：

**黄疸・胆石・肝炎を治す。便通を促し、湿熱を除く
（茵陳蒿湯）**

大黄＋牡丹皮（＋桃仁）：

**炎症性の瘀血を除く。皮膚炎、腸潰瘍などに用いる
（大黄牡丹皮湯）**

漢方の瀉下剤比較

主な漢方の瀉下剤について、ポイントとなる生薬の配合有無をまとめると下表のようになります。

	大黄甘草湯	大承気湯	調胃承気湯	桃核承気湯	防風通聖散	潤腸湯	麻子仁丸	乙字湯	
黄芩	—	—	—	—	○	○	—	○	一定のリスクに配慮 する必要あり
甘草	○	—	○	○	○	○	—	○	
大黄	○	○	○	○	○	○	○	○	強い瀉下作用
芒硝	—	○	○	○	○	—	—	—	
麻子仁	—	—	—	—	—	○	○	—	潤腸作用
杏仁	—	—	—	—	—	○	○	—	
桃仁	—	—	—	○	—	○	—	—	
当帰	—	—	—	—	○	○	—	○	